

鍼灸学科 1部 1年生

	授業科目名	担当教員名	実務経験 有無	時間数	単位数	コマ数
基礎 分野	からだの仕組みⅠ	滝田 裕子	—	30	2	15
	からだの仕組みⅡ	滝田 裕子	—	30	2	15
	からだの働きⅠ	飯塚 正	—	30	2	15
	からだの働きⅡ	飯塚 正	—	30	2	15
	外国語	及川 陽子	—	30	2	15
	健康科学	新井田 和夫	—	30	2	15
	コミュニケーション	後藤 聡	—	30	2	15
専門基礎 分野	解剖学Ⅰ	山本 恒之	—	30	2	15
	解剖学Ⅱ	山本 恒之	—	30	2	15
	解剖学Ⅲ	本郷 裕美	—	30	2	15
	生理学Ⅰ	上尾 慎	—	30	2	15
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	兼平 孝	—	30	2	15
	医療概論	上尾 慎	◎	15	1	7.5
専門 分野	はりきゅう理論Ⅰ	小野寺 智哉	◎	30	2	15
	東洋医学概論Ⅰ	松岡 晋也	◎	30	2	15
	東洋医学概論Ⅱ	松岡 晋也	◎	30	2	15
	経絡経穴概論Ⅰ	長谷川 直子	◎	30	2	15
	経絡経穴概論Ⅱ	長谷川 直子	◎	30	2	15
	あはきの適応の判断	伊藤 才二	◎	30	2	15
	生体観察	山本 恒之	◎	30	2	15
	基礎実技Ⅰ	小野寺・長谷川	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅱ	長谷川・小野寺・上尾	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅲ	小野寺・長谷川	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅳ	伊藤・上尾	◎	45	1	22.5
	総合領域Ⅰ	鍼灸学科教員	◎	180	6	90
合計				945	49	472.5

科目名	からだの仕組み I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	滝田 裕子		
教育目標	<p>人体はさまざまなからだの仕組みが機能することにより生命活動をおこなっている。複雑なからだの仕組みや機能を理解するため、まずからだの構造について学ぶ。次にからだを構成している細胞、からだの構成物質である糖質、脂質、タンパク質、遺伝子などについての知識を習得し、さまざまなからだの仕組みを理解する。また生命科学に関連する最先端の情報について、その背景も含めて現状を正しく把握する力をつけていく。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. からだの構造 2. からだを構成する細胞 3. からだの設計図 4. からだを維持するしくみ 5. からだの寿命 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	みんなの生命科学	著者名	北口哲也 他
		出版社名	化学同人

回	講義内容	備考
1	からだの構造の概要	
2	からだを動かすエネルギー	
3	からだ（生命体）の基本単位である細胞	
4	細胞内小器官の働き	
5	遺伝子の構造と機能	
6	遺伝のしくと遺伝病	
7	からだを構成する物質（糖質）	
8	からだを構成する物質（脂質）	
9	からだを構成する物質（タンパク質）	
10	からだを構成する物質（ビタミン・ミネラル）	
11	からだを維持するためのしくみ1	
12	からだを維持するためのしくみ2	
13	からだの寿命	
14	期末試験	
15	試験問題の解説	

科目名	からだの仕組みⅡ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	滝田 裕子		
教育目標	<p>からだの4大組織である上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織について学び、それらがどのような仕組みで機能することにより、複雑な生命活動を担っているのかを理解する。</p> <p>また受精と発生の仕組み、外敵に対する生体防御の仕組みについて学び、医療専門分野に進むために必要な基礎知識を習得する。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. からだを構成する組織（上皮・結合・筋肉・神経） 2. ヒトの受精 3. ヒトの発生 4. からだを外敵から守るしくみ 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</p>		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	みんなの生命科学	著者名	北口哲也 他
		出版社名	化学同人

回	講義内容	備考
1	からだの組織の概要	
2	上皮組織 1	
3	上皮組織 2	
4	結合組織 1	
5	結合組織 2	
6	筋組織 1	
7	筋組織 2	
8	神経組織 1	
9	神経組織 2	
10	ヒトの受精	
11	ヒトの発生	
12	生体防御 1	
13	生体防御 2	
14	期末試験	
15	試験問題の解説	

科目名	からだの働き I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に呼吸器系および泌尿器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鼻腔・咽頭・喉頭・気管(支)・肺の構造と機能 2. 肺胞におけるガス交換・換気量 3. 呼吸の調節機構 4. 泌尿器系の構造と機能 5. 腎臓と働きと尿生成 6. 泌尿器系の一般的な作用機序 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・なお、中間試験や授業時間内で小テストを行うこともある。期末試験、中間試験、小テストなどを合計し100点満点で成績を評価する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	『解剖学』、『生理学』	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	鼻腔、喉頭	
2	気管、肺	
3	肺胞、呼吸運動	
4	呼吸機能、酸素解離、換気	
5	呼吸調節	
6	呼吸器疾患	
7	中間試験	
8	中間試験の解説	
9	腎解剖、ネフロン	
10	腎機能	
11	尿管、膀胱、尿道	
12	排尿仕組み	
13	泌尿器疾患	
14	期末試験	
15	期末試験の解説	

科目名	からだの働きⅡ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に生殖器系および内分泌系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖器系の構造と機能 2. 男性、女性の生殖器 3. ホルモンの一般的な作用機序 4. 各ホルモンの作用 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・なお、中間試験や授業時間内で小テストを行うこともある。期末試験、中間試験、小テストなどを合計し100点満点で成績を評価する ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	『解剖学』、『生理学』	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	性分化、2次性徴	
2	男性生殖器、精子形成	
3	女性生殖器1	
4	女性生殖器2、性周期	
5	受精、妊娠、胎盤	
6	遺伝、生殖器疾患	
7	中間試験	
8	中間試験の解説	
9	ホルモン概要、視床下部	
10	下垂体・松果体	
11	甲状腺・上皮小体、膵臓	
12	副腎・性腺	
13	消化管、腎臓	
14	期末試験	
15	期末試験の解説	

科目名	外国語	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	及川 陽子		
教育目標	国際化する社会において、医療の世界にも外国人への医療行為が必要となってきた。ただしそれは必ずしも難解な知識や概念を必要とするものではない。この講義では、医療に関する語彙を知り、現場での医療行為に役立つ基本的な英語力を身につけることを目標とする。		
授業内容	英語という言語を使つての他者とのコミュニケーション力をつけるため、医療の現場で実際に使われる英会話を学ぶ。 具体的には、基本的な文法の確認、医学英語の基礎知識をふまえた上で 「英語を聞く」 「英語を読む」 「英語を話す」練習をする。 「英語を書く」ことも視野にいれ、適宜、資料を配布し、課題や小テストを行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	Basic English for Medical Care	著者名	Hiromi Koga
		出版社名	Yumi Press
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	はじめに・自己紹介する	
2	挨拶する	
3	案内は分かりやすくする	
4	個人情報聞きとり管理する	
5	指示や依頼をする	
6	相手を見て対応する	
7	確認・質問事項を準備する	
8	アレルギーや紹介状の有無を確認する	
9	行為をうながす	
10	的確な指示のもとで援助する	
11	説明は丁寧にする	
12	食物摂取は治療の一環と心得る	
13	患者と医師の間の橋渡しをする	
14	電話対応は短くする	
15	筆記試験	

科目名	健康科学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	新井田 和夫		
教育目標	健康に恵まれ、楽しく豊かな生涯をおくりたいとのねがいほだれもがもっている。日々の生活に潤いと充実感をもたらす、一人ひとりが生き生きとした生活をするためには個々に応じた適切な運動やスポーツ活動は欠かせないものである。本授業では、ストレッチはスポーツ障害を起こさない準備運動として開発されたが、現在医学の分野でも大きな効果をあげている。目的に合った正しいストレッチを理解させ、習得させることを指導方針とする。		
授業内容	<p>学生の年齢構成や男女混成であること、施設が手狭であることを考慮し、基本的な技術を学習し、機能解剖を理解させ、運動療法、ストレッチの基本的な知識と基本技術の習得を行う。臨床の場でストレッチングを効果的に使えるように学習して行く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ペア・ストレッチング 2. ストレッチング応用編（テクニク） 3. 疾患別ストレッチング・プログラム 4. 障害予防の筋力トレーニング+ストレッチング+キネシオテーピング 5. 体幹トレーニング 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備 考
1	オリエンテーション	
2	座学 (スポーツ健康科学)	
3	座学 (スポーツ健康科学)	
4	実技 (体幹トレーニング)	
5	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
6	実技 (体幹トレーニング)	
7	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
8	実技 (体幹トレーニング)	
9	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
10	実技 (体幹トレーニング)	
11	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
12	実技 (体幹トレーニング)	
13	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
14	実技 (体幹トレーニング)	
15	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	

科目名	コミュニケーション	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	後藤 聡		
教育目標	<p>コミュニケーションとは情報伝達という意味であり、臨床場面には不可欠である。臨床の対象になる人間と良好な関係を維持するためには、相手を理解することだけでは不十分である。人間関係や社会とのコミュニケーションを通じて生じる心理現象を知り、相手や自分に及ぼすその影響などを理解すること、自分の聴き方と話し方が相手に対してどのように影響するのかに気づき、必要に応じて自分を望ましい方向へ調整することも必要である。以上を考慮して本講義の目標を以下とする。</p> <p>◎日常の人間関係におけるコミュニケーションから生じる心理現象について広く理解する。</p> <p>◎個人との人間関係や社会生活において影響を受けるコミュニケーションについて理解する。</p> <p>◎臨床場面で不安や悩みなどを抱える人と良好な関係を形成、維持するために必要な対話を実践できる応用的な知識を身につける。</p>		
授業内容	<p>コミュニケーションは多岐にわたっており、人間以外の動物社会にも存在するが、本授業では人間社会に限定する。人間間のコミュニケーション、社会とのコミュニケーション、カウンセリングにおけるコミュニケーションに分類し、日常の人間関係や社会との関わりで生じる心理現象、カウンセリングという人間関係における話の聴き方について論じる。毎回異なったテーマを設け、理論、具体的事例、科学的根拠となる実証的研究成果を含めて、アクティビティや発問などを取り入れながら授業を展開する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に実施する。 ・ 再試験は期末試験終了後、授業時間外に実施する。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 試験等には試験の他に提出物を含む。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備 考
1	授業の概要説明・思考のトレーニング	
2	I 人間間のコミュニケーション (1) 対人コミュニケーション	
3	(2) 自己呈示	
4	(3) ステレオタイプ	提出物あり
5	(4) 対人認知	提出物あり
6	(5) 援助	提出物あり
7	(6) 攻撃	提出物あり
8	II 社会とのコミュニケーション (1) 社会的現実	提出物あり
9	(2) うわさ	
10	(3) 社会的ジレンマ	提出物あり
11	(4) 社会の中の誤り	提出物あり
12	III カウンセリングにおけるコミュニケーション (1) カウンセリングとは	提出物あり
13	(2) カウンセリングにおける基本的態度1	提出物あり
14	(3) カウンセリングにおける基本的態度2	提出物あり
15	期末試験	

科目名	解剖学 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に身体を支持する骨・関節および運動に関わる骨格筋を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系概要 2. 骨について 3. 関節について 3. 骨格筋について 4. その他の筋について 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	骨格系、筋系総論	
2	全身の骨格（脊柱）	
3	全身の骨格（上肢の骨格）	
4	全身の骨格（下肢の骨格）	
5	全身の骨格（頭蓋骨）	
6	体幹の筋・運動・局所解剖①	
7	中間試験	
8	体幹の筋・運動・局所解剖②	
9	上肢の筋・運動・局所解剖①	
10	上肢の筋・運動・局所解剖②	
11	下肢の筋・運動・局所解剖①	
12	下肢の筋・運動・局所解剖②	
13	頭頸部の筋・局所解剖	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	解剖学Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に神経系および感覚器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経の基本構造・組織構造 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系 4. 感覚器 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		
教科書	解剖学	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版社
参考書	病気が見える脳・神経	著者名	岡庭豊
		出版社名	メディックメディア
持ち物	ノート及び4色以上のペン		

回	講義内容	備考
1	神経系の構成	
2	中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳）	
3	中枢神経系（小脳、間脳）	
4	中枢神経系（大脳）	
5	中枢神経系（脳室系）	
6	中枢神経系（髄膜、脳脊髄液、脳の血管）	
7	中間試験	
8	末梢神経系（脳神経）	
9	末梢神経系（脊髄神経）	
10	末梢神経系（自律神経）	
11	伝導路	
12	感覚器系（視覚器）	
13	感覚器系（平衡感覚器、味覚器）	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	解剖学Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	本郷 裕美		
教育目標	この授業の目的は、循環器系および消化器系における人体の正常な構造と機能を理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <p>①循環器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓の構造 ・動脈・静脈 ・リンパ管 <p>②消化器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔・咽頭・食道・胃・十二指腸・空腸・回腸・結腸・直腸・肛門 ・肝臓、胆嚢、膵臓 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書	講義資料の配付	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	循環器（概論）	授業後に小テスト・確認テストを実施することがある。
2	心臓の構造	
3	心臓の働き	
4	動脈系（全身・上肢）	
5	動脈系（体幹・下肢）	
6	静脈系・胎児循環	
7	リンパ系・循環調節	
8	中間試験	
9	消化器総論・口腔	
10	歯・舌・咽頭	
11	食道・胃	
12	小腸・大腸	
13	肝臓の構造	
14	肝臓の働き・胆嚢・膵臓	
15	期末試験	

科目名	生理学 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	上尾 慎		
教育目標	この授業の目的は、人体の生理機能である、生体防衛および人体の恒常性（ホメオスタシス）についての基本的知識を理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <p>①生体防衛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液 ・免疫 ・アレルギーと炎症 <p>②人体恒常性（ホメオスタシス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養と代謝 ・体温 ・血圧と循環量の調節 ・体液 ・バイオリズム 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	生理学	著者名	(公社) 東洋療法学校協会編
		出版社名	医歯薬出版(株)
参考書	講義資料を配付	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	生理学基礎 細胞	授業後に小テスト・確認テストを実施することがある
2	生理学基礎 細胞	
3	生理学基礎 体液	
4	生理学基礎 体液	
5	生理学基礎 血球	
6	生理学基礎 血液凝固	
7	生理学基礎 循環 心臓	
8	生理学基礎 循環 心臓	
9	生理学基礎 循環 肺	
10	生理学基礎 循環 肺	
11	生理学基礎 外呼吸	
12	生理学基礎 外呼吸	
13	生理学基礎 神経	
14	生理学基礎 免疫細胞	
15	期末試験	

科目名	衛生学・公衆衛生学 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	兼平 孝		
教育目標	公衆衛生学とは、疾病予防と健康の保持増進のための科学であり、活動である。 公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。		
授業内容	基本的に必要な資料はすべてプリントにて配布する。 授業は教科書に基づきながら過去の国家試験問題を理解するために必要な知識や理論について学んでいきたい。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	公衆衛生がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	(株)メディックメディア
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	公衆衛生と健康の概念、疫学 1	
2	疫学 2、保健統計 1	
3	保健統計 2、医の倫理と医師法 1	
4	医療法と医療体制、社会保障と医療経済、地域保健	
5	成人保健と健康増進	
6	母子保健	
7	中間試験	
8	高齢者保健、障害者福祉	
9	精神保健、歯科保健	
10	感染症対策	
11	食品保健と栄養	
12	学校保健、産業保健 1	
13	産業保健 2、環境保健 1	
14	環境保健 2、国際保健	
15	期末試験	

科目名	医療概論	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	上尾 慎		
教員の実務経験	介護職員として長年勤務した後、鍼灸資格を取得、専任教員として従事する。		
教育目標	医療の歴史を学びながら、はり師・きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	歴史を通して現代の医療を考察し、日本や海外の医療費の仕組みの違い、日本における医療従事者の数と仕事内容、後期高齢者医療制度や高齢者の医療と福祉について学び、往診経験を持つ専任教員が実際の医療費における鍼灸の適応症などを踏まえて講義する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書	医療概論	著者名	中川米造監修
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備考
1	医療概論の基礎	
2	医学史	
3	現代医学の課題	
4	現代の医療制度	
5	医療倫理	
6	練習問題	
7	練習問題	
7.5	期末試験	

科目名	はりきゅう理論 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	本講では、主に鍼灸の基礎知識の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、まず「はりきゅう理論 I」では、その治効理論を学ぶための基礎となる、鍼灸の施術方法、リスク管理、人体の感覚機能等についての理解を深めていく。		
授業内容	①鍼灸の基礎知識、②刺鍼の方式と術式、③特殊鍼法、④灸の基礎知識、⑤灸術の種類、⑥鍼灸の臨床応用、⑦リスク管理、⑧鍼灸治効の基礎等を学ぶ。これらの項目を臨床経験のある教員が経験談や具体例などを踏まえアドバイスをし、習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	(公社) 東洋療法学校協会編
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式	
3	特殊鍼法	
4	灸の基礎知識	
5	灸術の種類	
6	鍼灸の臨床応用	
7	中間試験	
8	試験解説	
9	リスク管理	
10	鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導 I	
11	鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導 II	
12	鍼灸治効の基礎 温度感覚の受容と伝導	
13	鍼灸治効の基礎 触圧感覚の受容と伝導	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	東洋医学概論 I	時間・単位	2単位・30時間（15コマ）
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎な科目である。当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。東洋医学概論Ⅱとともに、この一年間で、この東洋医学の基礎理論、蔵象（臓腑の生理機能）とその病理病証、または、経絡の基本的な病証等を学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東洋医学理論の基礎 ・ 整体観念や精気・陰陽・五行の諸学説 ・ 東洋医学的な人体の捉え方である蔵象と病因・病機 <p>について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</p>		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学 [基礎編]	著者名	劉 公望・兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備考
1	東洋医学の沿革・起源・発展	小テストを実施する
2	陰陽学説	小テストを実施する
3	五行学説	小テストを実施する
4	精と神・気・血・津液の生理作用	小テストを実施する
5	気・血の病理	小テストを実施する
6	津液・陰陽の病理	小テストを実施する
7	中間試験	
8	蔵象学説（肝・心）	小テストを実施する
9	鍼灸学〔基礎編〕	小テストを実施する
10	蔵象学説（腎）	小テストを実施する
11	蔵象学説（胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦）	小テストを実施する
12	病因病機①	小テストを実施する
13	病因病機②	小テストを実施する
14	まとめ	小テストを実施する
15	期末試験	

科目名	東洋医学概論Ⅱ	時間・単位	2単位・30時間（15コマ）
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎な科目である。当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。東洋医学概論Ⅰとともに、この一年間で、この東洋医学の基礎理論、蔵象（臓腑の生理機能）とその病理病証、または、経絡の基本的な病証等を学ぶ。		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に現れている症状や徴候といった変化の把握 ・弁証論治 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学 [基礎編]	著者名	劉 公望・兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備考
1	八綱の概要	小テストを実施する
2	気・血・津液・陰陽の病理	小テストを実施する
3	五臓の病証	小テストを実施する
4	五臓の病証	小テストを実施する
5	五臓の病証	小テストを実施する
6	六腑の病証	小テストを実施する
7	中間試験	
8	複合病証	小テストを実施する
9	経絡病証	小テストを実施する
10	奇経八脈病証	小テストを実施する
11	六経弁証	小テストを実施する
12	衛気営血弁証	小テストを実施する
13	三焦弁証	小テストを実施する
14	まとめ	小テストを実施する
15	期末試験	

科目名	経絡経穴概論 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。</p> <p>本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。</p>		
授業内容	<p>教科書に基づき十四経の流注と、361穴の経穴の名称・所属経絡と取穴部位等を学び、鍼灸の臨床経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席、小テストの状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	新板 経絡経穴概論	著者名	日本理療科教員連盟
		出版社名	医道の日本
参考書	プリント配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	経穴とは (オリエンテーション)	
2	体表指標と骨度法	小テスト
3	流注・要穴表	小テスト
4	督脈 (38穴)	小テスト
5	任脈 (24穴)	小テスト
6	手の太陰肺経 (11穴) ・手の陽明大腸経 (20穴)	小テスト
7	足の陽明胃経 (45穴)	小テスト
8	足の太陰脾経 (21穴)	
9	中間試験	小テスト
10	手の少陰心経 (9穴) ・手の太陽小腸経 (19穴)	小テスト
11	足の太陽膀胱経 (67穴) ②	小テスト
12	足の少陰腎経 (27穴)	小テスト
13	手の厥陰心包経 (9穴) ・手の少陽三焦経 (23穴)	小テスト
14	足の少陽胆経 (44穴) /足の厥陰肝経 (14穴)	小テスト
15	期末試験	

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。</p> <p>本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。</p>		
授業内容	<p>教科書に基づき経絡経穴概論Ⅰの復習と経穴に関連している筋や支配神経等、各部位の横並びを学ぶ。臨床経験を持つ専任教員が取穴を行いながら患者さんに対する適応例や成功例、経穴の使い方などを踏まえて講義する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席、小テストの状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備 考
1	奇経八脈	
2	奇穴	小テスト
3	経絡経穴 I の復習	小テスト
4	胸腹部の解剖と経穴	小テスト
5	腰背部の解剖と経穴	小テスト
6	4 択練習問題	小テスト
7	中間試験	
8	上腕・前腕・手の解剖と経穴	
9	上腕・前腕・手の解剖と経穴	小テスト
10	大腿・下腿・足の解剖と経穴	小テスト
11	大腿・下腿・足の解剖と経穴	小テスト
12	頭・顔の解剖と経穴	小テスト
13	頭・顔の解剖と経穴	小テスト
14	期末試験練習問題	小テスト
15	期末試験	

科目名	あはきの適応の判断	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	現代医学と東洋医学の基礎理論、および臨床の知識は、将来、医療現場で医療従事者として必要不可欠である。しかしながら臨床現場では、複合的な持病をもっている患者もやって来る。正しく対応するためには、正しい適応判断が必要である。当科目においては、臨床現場で正しく診断、そして質の高い診療活動が出来るよう、適応不適応の判断が出来るようになることが目的である。		
授業内容	「鍼灸不適応疾患の鑑別と対策」を参考書とし、「臨床医学各論」に記載されている疾患等が鍼灸の適応か不適応かを判断できるように、開業経験を持つ担当教員が実際に鍼灸院で起こった「ひやりハット」の事例など踏まえて講義する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸不適応疾患の鑑別と対策	著者名	代田文彦ほか
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備考
1	鍼灸治療の適応の条件、感染症	
2	消化器系疾患、肝・胆・膵の疾患	
3	呼吸器系疾患	
4	泌尿器系疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患	
5	整形外科疾患	
6	整形外科疾患	
7	整形外科疾患	
8	整形外科疾患	
9	整形外科疾患	
10	整形外科疾患	
11	循環器系疾患、血液・造血系疾患	
12	神経系疾患	
13	膠原病、その他の疾患	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	生体観察	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教員の実務経 験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	体表から触知することのできる骨・筋・腱・神経・血管について、これらの構造物がどの位置に、またどの位の深さにあるのかを、実践を通して習得させることを教育目標とする。		
授業内容	<p>鍼灸師が行う診察と治療は、すべて皮膚を介して行われる。 したがって、今自分が触れている皮膚の下層に何があるのかが分からなければ、診察も治療も全くできないことは自明の理である。鍼灸の臨床経験をいかし、以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭顔面部 2. 頸 部 3. 体 幹 4. 上 肢 5. 下 肢 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動器とは	小テスト
2	上肢帯・肩	小テスト
3	上腕・前腕	小テスト
4	手	小テスト
5	上肢まとめ	小テスト
6	中間試験①	
7	大腿	小テスト
8	下腿	小テスト
9	足	小テスト
10	下肢まとめ	小テスト
11	中間試験②	
12	体幹	小テスト
13	頭顔頸部	小テスト
14	体幹・頭顔頸部まとめ	小テスト
15	期末試験	

科目名	基礎実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小野寺 智哉 長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>まずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする</p>		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、消毒などの公衆衛生知識、鍼灸治療の過誤と副作用、予防、処置、挿管法（両手挿管法、片手挿管法）、刺鍼の知識（前揉法、押手、切皮、刺入、後揉法）、各種刺法とシリコンゴムへの刺入について学んでいく。</p> <p>※触診・取穴は、特に下肢の骨・筋肉を重点的に行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指および刺鍼部の消毒	
3	鍼具の消毒法・滅菌法	
4	鍼治療の過誤と副作用、予防と処置	
5	現行刺鍼の方法（管鍼法の操作）	
6	刺鍼手技①（単刺術、直刺、斜刺、横刺）	
7	刺鍼手技②（置鍼術、雀啄術）	
8	刺鍼手技③（回旋術、旋撚術、刺鍼転向法）	
9	刺入の手順（各自の足への刺入）	
10	各自の足への刺入	
11	各自の足への刺入	
12	中間試験①	
13	中間試験②	
14	刺入の手順（他人への手足への刺入）	
15	足への刺鍼（胃経への刺鍼）	
16	手への刺入（大腸経への刺鍼）	
17	足への刺入（脾経への刺鍼）	
18	手への刺入（心包経、三焦経への刺鍼）	
19	手足への刺鍼まとめ	
20	手足への刺鍼まとめ	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	まとめ	

科目名	基礎実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	長谷川 直子 小野寺 智哉 上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。</p> <p>まずは施灸板で米粒大と半米粒大を正確に作成し、点火する。次に人に対して、五要穴（原・郄・絡）へ施灸し、最終的には背部俞穴に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>鍼灸の臨床現場で灸施術をどの様に使用しているか、治療効果など現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 灸の概要（起源、分類、製造過程、灸治療の過誤と副作用、予防、処置） 2. 練習板を使い、米粒大・半米粒大を5分間で20壮施灸 3. 有根灸（透熱灸、知熱灸〔瞬間灸〕） 4. 上下肢の要穴（原・郄・絡）の取穴と施灸。 5. 胃の六つ灸への施灸。 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・成績評価にあたっては①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指洗浄と消毒、板を使つての施灸練習	
3	艾炷の点火、5分で10壮練習	
4	5分で10壮練習	
5	5分で15壮練習	
6	5分で20壮練習	
7	到達試験①	
8	自分の身体への施灸	
9	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
10	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
11	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
12	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
13	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
14	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
15	中間試験①	
16	中間試験②	
17	中間試験③	
18	他人の身体への施灸（背部の取穴）	
19	他人の身体への施灸（背部へ施灸）	
20	他人の身体への施灸（背部へ施灸）	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

科目名	基礎実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小野寺 智哉 長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>まずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>経絡経穴概論と図解 鍼灸臨床手技マニュアルの教科書に基づき、基礎実技Ⅰの復習と手足の五要穴への正確な取穴と刺針を行う。臨床で最も多い肩・首・腰の主要経穴への刺針を行う。臨床経験を持つ専任教員が、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配付資料	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	基礎実技 I の復習	
2	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（太陽経）	
3	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（少陽経）	
4	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（陽明経）	
5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（太陰経）	
6	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（少陰経）	
7	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（厥陰経）	
8	まとめ	
9	中間試験練習	
10	中間試験①	
11	中間試験②	
12	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼①	
13	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼②	
14	腰部の常用穴の刺鍼①	
15	腰部の常用穴の刺鍼②	
16	頸部の常用穴の刺鍼①	
17	頸部の常用穴の刺鍼②	
18	背部、肩関節周囲の常用穴刺鍼のまとめ	
19	腰部の常用穴の刺鍼のまとめ	
20	頸部の常用穴の刺鍼	
21	期末試験練習	
22	期末試験①	
22.5	期末試験②	

科目名	基礎実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	伊藤 才二 上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。</p> <p>人に対して、各体位で施灸し、最終的に手足の五行穴に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>開業経験を持つ担当教員が、実際の患者へ施していた糸状灸、散艾による知熱灸、粗艾による知熱灸、その他の灸法などの各種灸法を、実践に即した形で学んでいく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	図解鍼灸療法技術ガイド Ⅰ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	糸状灸・九分灸・粗艾	
2	糸状灸・九分灸・粗艾	
3	糸状灸・九分灸・粗艾	
4	灸頭鍼	
5	灸頭鍼	
6	肺経の五腧穴へ施灸	
7	大腸経の五腧穴へ施灸	
8	胃経の五腧穴へ施灸	
9	脾経の五腧穴へ施灸	
10	心経の五腧穴へ施灸	
11	小腸経の五腧穴へ施灸	
12	膀胱経の五腧穴へ施灸	
13	腎経の五腧穴へ施灸	
14	心包経の五腧穴へ施灸	
15	三焦経の五腧穴へ施灸	
16	胆経の五腧穴へ施灸	
17	肝経の五腧穴へ施灸	
18	総合練習	
19	期末試験	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	その他の灸法	

科目名	総合領域 I	時間・単位	180時間・6単位・90コマ
担当教員	鍼灸学科教員		
教員の経歴	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生に対し、1年次に学ぶすべての分野において総合的に復習し、ベースとなる基礎医学の修得を目的とする。また、医療者としての心得や東洋医学的思考の基礎づくりも合わせて行うものとする。		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業を行う。</p> <p>総合領域 I ①：各教科の復習・実力テスト（あはきの歴史含む：70コマ）</p> <p>総合領域 I ②：からだの仕組み・働きの復習（20コマ）</p> <p>上記の内容を担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域 I ①、②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（日程表確認のこと）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		
教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	日付	講義内容	回	日付	講義内容	回	日付	講義内容
1	4/17	解剖Ⅰ①	31	9/18	生観⑤	61	12/20	総合領域Ⅰ④
2	5/7	経穴Ⅰ①	32	9/20	東概1⑤	62	1/7	総合領域Ⅰ⑤
3	5/8	解剖Ⅰ②	33	9/25	生理Ⅰ⑤	63	1/8	公衛Ⅰ③
4	5/10	東概Ⅰ①	34	10/3	歴史④	64	1/14	総合領域Ⅰ⑥
5	5/10	はきⅠ①	35	10/7	試験①	65	1/15	解剖Ⅲ⑤
6	5/13	生理Ⅰ①	36	10/9	解剖Ⅱ①	66	1/15	総合領域Ⅰ⑦
7	5/22	解剖Ⅰ③	37	10/10	歴史⑤	67	1/20	経穴Ⅱ③
8	6/4	経穴Ⅰ②	38	10/21	試験①解説	68	1/20	総合領域Ⅰ⑧
9	6/5	解剖Ⅰ④	39	10/23	解剖Ⅱ②	69	1/21	総合領域Ⅰ⑨
10	6/7	東概Ⅰ②	40	10/25	東概Ⅱ①	70	1/22	総合領域Ⅰ⑩
11	6/7	はきⅠ②	41	10/31	経穴Ⅱ①	71	1/22	総合領域Ⅰ⑪
12	6/10	生理Ⅰ②	42	11/6	解剖Ⅱ③	72	1/27	試験④
13	6/19	解剖Ⅰ⑤	43	11/11	試験②	73	1/27	総合領域Ⅰ⑫
14	7/2	経穴Ⅰ③	44	11/11	公衛Ⅰ①	74	1/28	総合領域Ⅰ⑬
15	7/3	生観①	45	11/18	試験②解説	75	1/29	総合領域Ⅰ⑭
16	7/5	東概1③	46	11/20	解剖Ⅱ④	76	1/29	総合領域Ⅰ⑮
17	7/5	はきⅠ③	47	11/22	東概Ⅱ②	77	1/31	東概Ⅱ④
18	7/8	生理Ⅰ③	48	12/4	解剖Ⅱ⑤	78	2/3	試験④解説
19	7/17	生観②	49	12/9	試験③	79	2/3	総合領域Ⅰ⑯
20	7/30	経穴Ⅰ④	50	12/9	公衛Ⅰ②	80	2/4	総合領域Ⅰ⑰
21	7/30	はきⅠ④	51	12/10	総合領域Ⅰ①	81	2/5	総合領域Ⅰ⑱
22	7/31	生観③	52	12/11	解剖Ⅲ①	82	2/10	公衛Ⅰ④
23	8/23	東概1④	53	12/11	解剖Ⅲ②	83	2/10	総合領域Ⅰ⑲
24	8/26	生理Ⅰ④	54	12/13	総合領域Ⅰ②	84	2/12	経穴Ⅱ④
25	8/29	歴史①	55	12/16	試験③解説	85	2/17	試験⑤
26	9/4	生観④	56	12/17	総合領域Ⅰ③	86	2/17	総合領域Ⅰ⑳
27	9/5	歴史②	57	12/18	解剖Ⅲ③	87	2/28	東概Ⅱ⑤
28	9/12	歴史③	58	12/18	解剖Ⅲ④	88	3/3	試験⑤解説
29	9/17	経穴Ⅰ⑤	59	12/20	東概Ⅱ③	89	3/6	公衛⑤
30	9/17	はきⅠ⑤	60	12/20	経穴Ⅱ②	90	3/7	経穴Ⅱ⑤

鍼灸学科 1部 2年生

	授業科目名	担当教員名	実務経験 有無	時間数	単位数	コマ数
専門基礎 分野	解剖学Ⅳ	高橋 尚明	—	30	2	15
	生理学Ⅱ	上尾 慎	—	30	2	15
	生理学Ⅲ	小野寺 智哉	—	30	2	15
	病理学概論	飯塚 正	—	30	1	15
	臨床医学総論Ⅰ	熊澤 亜由美	—	30	1	15
	臨床医学総論Ⅱ	上尾 慎	—	30	1	15
	臨床医学各論Ⅰ	長谷川 直子	—	30	1	15
	臨床医学各論Ⅱ	熊澤 亜由美	—	30	1	15
	臨床医学各論Ⅲ	山賀 真知子	—	30	1	15
	関係法規	長谷川 直子	◎	15	1	7.5
	社会保障制度及職業倫理	上尾 慎	◎	15	1	7.5
	専門 分野	はりきゅう理論Ⅱ	小野寺 智哉	◎	30	2
東洋医学概論Ⅲ		松岡 晋也	◎	30	2	15
東洋医学臨床論Ⅰ		伊藤 才二	◎	30	2	15
東洋医学臨床論Ⅱ		松岡 晋也	◎	30	2	15
東洋医学臨床論Ⅲ		伊藤 才二	◎	30	2	15
応用実技Ⅰ		山賀・熊澤	◎	45	1	22.5
応用実技Ⅱ		松岡・重高	◎	45	1	22.5
応用実技Ⅲ		山賀・熊澤	◎	45	1	22.5
応用実技Ⅳ		松岡・重高	◎	45	1	22.5
総合実技Ⅰ		熊澤・小野寺	◎	45	1	22.5
臨床実習Ⅰ		重高・熊澤	◎	45	1	30
臨床実習Ⅱ		重高・熊澤	◎	45	1	30
総合領域Ⅱ		鍼灸学科教員	◎	150	5	75
合計				915	36	472.5

科目名	解剖学Ⅳ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	高橋 尚明		
教育目標	運動障害をもつ患者を診て治療を行うためには、人間の運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を備える。1年次に学習した解剖生理学の基礎知識を基に、特に運動系について総合的な理解を深めることを教育目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学総論 2. 運動器の構造と機能 3. 神経の構造と機能 4. 運動感覚・反射・随意運動 5. 上肢の運動 6. 下肢の運動 7. 体幹の運動 8. 姿勢・歩行 9. 運動発達・運動学習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	運動学	著者名	斎藤宏・鴨下博
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	パンスキー ジェスト解剖学 基礎と臨床に役立つ Ⅰ 背部・上肢・下肢	著者名	ベン・パンスキー / トーマス・R・ジェスト
		出版社名	西村書店

回	講義内容	備考
1	運動学総論	
2	運動器の構造と機能	
3	神経の構造と機能①	
4	神経の構造と機能②	小テスト
5	運動の感覚、反射、随意運動	
6	上肢の運動器①	
7	上肢の運動器②	
8	中間試験	1～7回
9	下肢の運動器①	
10	下肢の運動器②	
11	体幹の運動器	
12	姿勢・歩行	小テスト
13	発達・学習	
14	復習とテスト対策	
15	期末テスト	8～14回

科目名	生理学Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	上尾 慎		
教育目標	1) 生理学を学ぶことにより、ヒトが生活している仕組みを理解する。 2) 生理学の学習を通じて、鍼灸師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。		
授業内容	以下の項目で講義をおこなう。 1. 消化と吸収 2. 栄養と代謝 3. 体温 4. 内呼吸 5. 泌尿器と腎臓 6. 骨 7. 筋肉		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	生理学（改訂第3版）	著者名	
		出版社名	
参考書	講義資料を配付	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	消化と吸収	授業の進み方を見て、中間試験を実施することがある。
2	消化と吸収	
3	栄養と代謝	
4	栄養と代謝	
5	内呼吸	
6	体温	
7	中間試験	
8	内分泌	
9	泌尿器	
10	泌尿器と生殖器	
11	尿生成	
12	骨	
13	筋肉	
14	筋肉	
15	期末試験	

科目名	生理学Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教育目標	1) 生理学を学ぶことにより、ヒトが生きている仕組みを理解する。 2) 生理学の学習を通じて、鍼灸師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。		
授業内容	以下の項目について講義をおこなう。 1. 内分泌 2. 免疫 3. 神経 4. 感覚		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	生理学（改訂第3版）	著者名	
		出版社名	
参考書	講義資料を配付	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	内分泌 (A) : 概要・視床下部と下垂体のホルモン	授業後に小テスト・確認テストを実施することがある。
2	内分泌 (B) : 甲状腺と副腎のホルモン	
3	内分泌 (C) : 消化系ホルモン	
4	免疫 (A) : 免疫の概要と獲得免疫 (体液性免疫)	
5	免疫 (B) : 獲得免疫 (細胞性免疫)	
6	免疫 (C) : リンパと脾臓	
7	中間試験	
8	神経 (A) : 静止膜電位とシナプス	
9	神経 (B) : 神経線維・自律神経の働き	
10	神経 (C) : 伝導路・ブラウン・セカール症候群	
11	神経 (D) : 脳の機能局在	
12	神経 (E) : 反射	
13	感覚 (A) : 感覚の概要と体性感覚	
14	感覚 (B) : 特殊感覚	
15	期末試験	

科目名	病理学概論	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教育目標	現在の医学は目覚しい進歩を日々示しており、病理学も古い古典的病理学から脱皮し、新しい医学研究の一翼として、その内容や研究方法を変えつつある。こういった医学研究の進歩の著しい環境にあつて、鍼灸師を目指している学生が、病理学を通して学んだ知識が将来の自己学習の基礎となりうるように、また鍼灸治療術を学ぶ基礎となるように講義をすすめる方針である。		
授業内容	病理学の概略として1. 病理学の意義 2. 疾病の一般 3. 病因 4. 疾病各論に関しての講義を行うが、病理学を学ぶ上で不可欠な解剖学、組織学、生理学などの知識についてもその概要も交えて総合的に講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	病理学概論、プリント	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	病理学とは・その方法について	
2	疾病の意義と分類・症候の意義と分類・疾病の経過	
3	内因、外因	
4	退行性病変1	
5	退行性病変2	
6	循環障害	
7	中間試験	
8	進行性病変	
9	炎症の一般・分類について	
10	免疫異常、自己免疫異常・アレルギー	
11	腫瘍総論1	
12	腫瘍総論2、腫瘍各論	
13	先天性異常総論・奇形	
14	運動器疾患	
15	期末試験	

科目名	臨床医学総論 I	時間・単位	1単位・30時間（15コマ）
担当教員	熊澤 亜由美		
教育目標	<p>現代西洋医学は科学理論を基盤として成立しており、多くの疾患の診断や治療において、力を発揮している。しかしながら、西洋医学的手法をもってしても力の及ばない領域、例えば、原因が明らかでない複雑な発症要因をもつ疾患や精神的な要素が関連する疾患などがある。さらに、西洋医学では、病態を分析し、臓器に焦点を当てがちで全体像を軽視する傾向がある。これに対して東洋医学では、包括的に病態を捉え、個人の自然治癒力を重視し、全人的に診断・治療する姿勢であり、東洋医学は、西洋医学の実態より現われた歪みを糺し、欠点を補うことが出来る特性がある。東洋医学は、もはや西洋医学を補完・代替する立場ではなく、西洋医学と東洋医学は全く同格の立場で、互いに長所と短所を認め合いながら調和し、国民に有益な医療と情報を提供することが肝要なのである。かかる視点に立ち、東洋医学の医療者を志す学生に西洋医学の持つ科学的な観察と思考力を教示する。</p>		
授業内容	<p>「臨床医学総論」の教科書を使用し、西洋医学における臨床医学の全体を総括して講義を行い、臨床医学における各診療科に共通する事項を横断的に解説する。教科書に準拠して講義を行うが、プリントなどを適宜配布して補足解説する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験・小テストを実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 小テストを実施し、成績に加味する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学総論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	配付資料 医療関係専門書	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	診察の概要・方法	小テスト実施
2	生命徴候の診察	小テスト実施
3	全身の診察①	小テスト実施
4	全身の診察②	小テスト実施
5	全身の診察③	小テスト実施
6	中間試験	
7	局所の診察①	小テスト実施
8	局所の診察②	小テスト実施
9	局所の診察③	小テスト実施
10	中間試験	
11	神経系の診察	小テスト実施
12	運動機能検査①	小テスト実施
13	運動機能検査②	小テスト実施
14	運動機能検査③	小テスト実施
15	期末試験	

科目名	臨床医学総論Ⅱ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	上尾 慎		
教育目標	患者を理解し、正しく診断して適切な医療を行ううえで重要な医療面接、身体診察、検査法を学習し、主な症状の診察法や臨床検査法を理解する。		
授業内容	臨床医学総論Ⅰに続き、「臨床医学総論」の教科書を使用し、西洋医学における臨床医学の全体を総括して講義を行い、臨床医学における各診療科に共通する事項を横断的に解説する。教科書に準拠して講義を行うが、プリントなどを適宜配布して補足解説する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学総論	著者名	(公社) 東洋療法学校協会編
		出版社名	医歯薬出版(株)
参考書	配付資料 医療関係専門書等	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	臨床機能検査	
2	臨床機能検査	
3	主な症状の診察法①	
4	主な症状の診察法②	
5	主な症状の診察法③	
6	主な症状の診察法④	
7	主な症状の診察法⑤	
8	中間試験	
9	主な症状の診察法⑥	
10	主な症状の診察法⑦	
11	主な症状の診察法⑧	
12	主な症状の診察法⑨	
13	主な症状の診察法⑩	
14	治療・臨床心理	
15	期末試験	

科目名	臨床医学各論 I	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。 ・各疾患の成因、発生機序、病態生理を中心に講義をする。 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	病気がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	メディックメディア

回	講義内容	備 考
1	感染症①	
2	感染症②	
3	感染症③	
4	消化管疾患①	
5	消化管疾患②	
6	消化管疾患③	
7	中間試験	
8	肝・胆・膵疾患①	
9	肝・胆・膵疾患②	
10	肝・胆・膵疾患③	
11	呼吸器疾患①	
12	呼吸器疾患②	
13	呼吸器疾患③	
14	期末試験	
15	期末試験解説	

科目名	臨床医学各論Ⅱ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	熊澤 亜由美		
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。 ・各疾患の成因、発生機序、病態生理を中心に講義をする。 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	病気がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	メディックメディア

回	講義内容	備考
1	腎・尿器疾患①	小テスト実施
2	腎・尿器疾患②	小テスト実施
3	腎・尿器疾患③	小テスト実施
4	内分泌疾患①	小テスト実施
5	内分泌疾患②	小テスト実施
6	内分泌疾患③	小テスト実施
7	中間試験	
8	代謝・栄養疾患①	小テスト実施
9	代謝・栄養疾患②	小テスト実施
10	血液・造血器疾患①	小テスト実施
11	血液・造血器疾患②	小テスト実施
12	リウマチ性疾患・膠原病①	小テスト実施
13	リウマチ性疾患・膠原病②	小テスト実施
14	まとめ	小テスト実施
15	期末試験	

科目名	臨床医学各論Ⅲ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	山賀 真知子		
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<p>はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の成因，発生機序，病態生理を中心に講義をする。 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	整形外科疾患①	
2	整形外科疾患②	
3	整形外科疾患③	
4	循環器疾患①	
5	循環器疾患②	
6	循環器疾患③	
7	中間試験	
8	神経疾患①	
9	神経疾患②	
10	神経疾患③	
11	神経疾患④	
12	その他の領域①	
13	その他の領域②	
14	その他の領域③	
15	期末試験	

科目名	関係法規	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	はり師、きゅう師として業務に従事するうえで、「あん摩マッサージ指圧師はり師、きゅう師等に関する法律」と、その業務と、医療従事者として必要な医事福祉関係法規を理解する。		
授業内容	法制度の沿革を通して鍼灸の現状を知り、医療従事者としての鍼灸師の法的位置づけを学び、今後、鍼灸師として業務にあたる際に必要な法制度を、臨床経験を持つ専任教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配付資料	著者名	
		出版社名	
参考書	関係法規	著者名	東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備 考
1	オリエンテーション はり師・きゅう師法律	
2	医事法規と医療制度 医師法	
3	その他の医療従事者に関する法律	
4	薬事法	
5	衛生関係法規	
6	社会保険関係法規、関連医事用語の解説	
7	まとめ、練習問題	
7.5	期末試験	

科目名	社会保障および職業倫理	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	医療概論と関係法規の内容を踏まえ、国家試験に向けての最新情報を知り、はり師、きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	医療概論と関係法規の国家試験対策として最新の情報を四択問題を解きながら覚え、はり師、きゅう師として必要な医療保障や医療倫理、あはき法などを、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書	医療概論・関係法規	著者名	中川米造監修・東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備考
0.5	オリエンテーション	
1.5	医療概論の国試対策	
2.5	医療概論の国試対策	
3.5	関係法規の国試対策	
4.5	関係法規の国試対策	
5.5	関係法規の国試対策	
6.5	まとめ、練習問題	
7.5	期末試験	

科目名	はりきゅう理論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	鍼灸の治効理論の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、「はりきゅう理論Ⅱ」では、「はりきゅう理論Ⅰ」を踏まえて、鍼灸刺激が生体にどのように作用するかについて、生理学と関連付けながら、治効理論を学んでいく。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で「はりきゅう理論Ⅰ」を踏まえ、鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識、鍼灸治効機序、鍼灸治効機序と臨床の接点等を学習し、鍼灸療法の治効理論を理解していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸療法技術ガイドⅠ、Ⅱ	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	はりきゅう理論Ⅰ復習	第1章～第4章
2	はりきゅう理論Ⅰ復習	第5章～第7章
3	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	第8章①
4	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	第8章②
5	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	第8章③
6	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	第8章④⑤
7	中間試験	
8	鍼灸治効機序	第9章①
9	鍼灸治効機序	第9章②
10	鍼灸治効機序	第9章③
11	鍼灸治効機序	第9章④
12	鍼灸治効機序と臨床の接点	第10章①
13	鍼灸治効機序と臨床の接点	第10章②
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	東洋医学概論Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	<p>伝統医学における鍼灸臨床は、四診法（望・聞・問・切診）を行い、弁証論治に基づく処方と配穴で治療を行う。</p> <p>そこで、伝統鍼灸治療を行う上で必要な四診法、弁証論治を習得する。</p> <p>先ず、診察に必要な医療面接技法を学び、次に望診、聞診、問診、切診と四診法を習得し、最終的には、四診所見から弁証できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>1. 医療面接技法</p> <p>2. 四診法（望診、聞診、問診、切診）</p> <p>3. 弁証論治（治則、治法、配穴）</p> <p>以上の項目を臨床経験のある教員が経験談や具体例などのアドバイスをし、習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・小テストを実施し成績に加味する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸弁証学	著者名	平田 耕一
		出版社名	現代出版プランニング

回	講義内容	備考
1	望診①	
2	望診② 問診①	
3	問診①	
4	問診②	小テスト
5	問診③	
6	問診④	
7	中間テスト	1～6回
8	切診①	
9	切診②③	
10	鍼灸の補瀉法・難経六十九難	
11	論治①	小テスト
12	治療法の概要①	
13	古代刺法	
14	まとめ	
15	期末テスト	1～14回

科目名	東洋医学臨床論 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で診察の結果から治療の不適切を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。現代医学的な考え方をもとに、鍼灸施療の対象となる症状について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、診察、治療の過程を理解し、鍼灸施術を適切に行う能力と姿勢を育成する。		
授業内容	<p>鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、下記のような実践的な知識および技術を習得していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察と治療、治療計画 2. 所見と記録、治療原則 3. 主要症候の診断と治療 <p>① 病態 ②原因 ③症状 ④徒手検査 ⑤治療方針 ⑥鍼灸施術</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイド I・II	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	東洋医学臨床論・はりきゅう編	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備 考
1	総論、疼痛	課題提出や小テストを実施することがある。
2	腰下肢痛①	
3	腰下肢痛②	
4	腰下肢痛③	
5	腰痛①	
6	腰痛②	
7	腰痛③	
8	中間試験	
9	下肢痛①	
10	下肢痛②	
11	下肢痛③	
12	膝痛①	
13	膝痛②	
14	東臨 I まとめ	
15	期末試験	

科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	1年次の東洋医学概論Ⅰおよび東洋医学概論Ⅱで学習した東洋医学理論を応用し、臨床で遭遇しやすい疾患の東洋的臨床に活用するための知識の習得を目的とする。		
授業内容	東洋医学概論で学習した理論を応用しながら、 1. 各疾患の弁証 2. 各疾患の論治（治則・治法） 3. 各疾患の処法（配穴法） 以上の項目について担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的な経験談などアドバイスをを行い、学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・小テストを実施し成績に加味する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂
参考書	針灸学【臨床編】	著者名	日中共同編集
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備考
1	蔵象・臓腑弁証	
2	腹痛、悪心・嘔吐、便秘・下痢	
3	咳と痰、呼吸困難、動悸	
4	高血圧、低血圧、胸痛	小テスト
5	めまい、耳鳴り、難聴	
6	鼻閉・鼻汁、眼精疲労	
7	中間テスト	1～6回
8	排尿障害、ED、月経異常	
9	不通則痛・不営則痛（肩こり・頸肩腕痛）	
10	運動麻痺、末梢神経麻痺	
11	頭痛、顔面痛、不眠症	小テスト
12	うつ病、冷え症、のぼせ	
13	肥満、やせ、脱毛症、かゆみ	
14	まとめ	
15	期末テスト	1～14回

科目名	東洋医学臨床論Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で診察の結果から治療の不適切を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。現代医学的な考え方をもとに、鍼灸施療の対象となる症状について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、診察、治療の過程を理解し、鍼灸施術を適切に行う能力と姿勢を育成する。		
授業内容	<p>鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、下記のような実践的な知識および技術を習得していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察と治療、治療計画 2. 所見と記録、治療原則 3. 主要症候の診断と治療 <p>① 病態 ②原因 ③症状 ④徒手検査 ⑤治療方針 ⑥鍼灸施術</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	東洋医学臨床論・はりきゅう編	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備 考
1	頭痛、顔面痛、顔面神経麻痺①	課題提出や小テストを実施することがある。
2	頭痛、顔面痛、顔面神経麻痺②	
3	頭痛、顔面痛、顔面神経麻痺③	
4	頸肩腕痛①	
5	頸肩腕痛②	
6	頸肩腕痛③	
7	中間試験	
8	上肢痛①	
9	上肢痛②	
10	上肢痛③	
11	関節痛	
12	肩関節痛①	
13	肩関節痛②	
14	東臨Ⅲまとめ	
15	期末試験	

科目名	応用実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山賀 真知子 熊澤 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>実際の臨床において遭遇しやすい腰下肢痛を取り上げ、現代鍼灸の立場から、身体 の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、適切な鍼灸治療法を体得する。 腰殿部や下肢の解剖を復習し、各部位の理学所見を学び、最終的には各種所見を取 り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の点について学んでいく。 ①低周波鍼通電療法の基礎。②腰下肢痛の疾患の鑑別とリスクマネジメント。③ 下肢痛に対する施術。④刺鍼深度・角度の調整。 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識お よび技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸療法技術ガイド	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	低周波鍼通電療法の基礎（下肢の筋）①	課題あり
2	低周波鍼通電療法の基礎（上肢の筋）②	課題あり
3	腰殿部の触診、腰殿部の刺鍼練習	課題あり
4	腰殿部のROM、腰殿部の刺鍼練習	課題あり
5	筋・筋膜性腰痛	課題あり
6	腰椎椎間板ヘルニア①	課題あり
7	腰椎椎間板ヘルニア②	課題あり
8	腰部脊柱管狭窄症	課題あり
9	椎間関節性腰痛	課題あり
10	変形性腰椎症	課題あり
11	梨状筋症候群	課題あり
12	ロールプレイ	課題あり
13	腰殿部の刺鍼練習	課題あり
14	中間試験①	
15	中間試験②	
16	坐骨神経痛	課題あり
17	変形性膝関節症	課題あり
18	ロールプレイ	課題あり
19	腰下肢痛治療まとめ①	課題あり
20	腰下肢治療まとめ②	課題あり
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

科目名	応用実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	松岡 晋也 重高 広和		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	臨床において遭遇しやすい症例を学び、診察法・治療法を理解し適切な鍼灸治療法を体得する。 最終的には医療面接から患者の状態を判断し、弁証論治し、的確な施術をできることを目標とする。		
授業内容	担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、以下の項目について授業を行う。 1.四診法 2.弁証 3.配穴 4.症例に対するロールプレイ		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂
参考書	針灸学【臨床編】	著者名	日中共同編集
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備 考
1	四診法（切診①）	
2	四診法（切診②）	
3	四診法（切診③）	
4	四診法（望診）	
5	四診法（問診）	
6	中間試験（四診法）	
7	腹痛	
8	頭痛	
9	うつ病	
10	便秘・下痢	
11	頭痛・眩暈	
12	咳と痰・鼻閉と鼻汁	
13	耳鳴・難聴	
14	高血圧・低血圧	
15	眼精疲労・不眠	
16	月経痛（月経困難症）	
17	経筋・運動器疾患	
18	かゆみ	
19	配穴法	
20	期末試験①	片手挿管
21	期末試験②	片手挿管
22	期末試験③	症例問題
22.5	期末試験④	症例問題

科目名	応用実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山賀 真知子 熊澤 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>実際の臨床において遭遇しやすい頸肩部痛を取り上げ、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、適切な鍼灸治療法を体得する。</p> <p>先ずは、低周波鍼通電療法を学び、次に頸肩部や上肢肢の解剖を復習し、各部位の理学所見を学び、最終的には医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p>		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、低周波鍼通電療法（パルス）の基礎、頸肩部痛の疾患の鑑別とリスクマネジメント、頸肩部の理学検査、神経学的検査、頸肩部痛に対する施術（病態把握と治療目的）、症例に対するロールプレイについて学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸療技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	頸部・肩関節の触診①	課題あり
2	頸部・肩関節の触診②、肩関節の可動域ROM	課題あり
2.5	頸部・肩関節の触診③、肩関節の可動域ROM	課題あり
3.5	肩こり、頸部痛（僧帽筋上部線維）①	課題あり
4.5	肩こり、頸部痛（僧帽筋上部線維）②	課題あり
5.5	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷①	課題あり
6.5	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷②	課題あり
7.5	胸郭出口症候群①	課題あり
8.5	胸郭出口症候群②	課題あり
9.5	上腕二頭筋長頭腱炎	課題あり
10.5	頸肩部刺鍼練習	課題あり
11.5	頸肩部ロールプレイ①	課題あり
12.5	中間試験①	
13.5	中間試験②	
14.5	頸部の触診と可動域（ROM）、理学的診断	課題あり
15.5	頸椎椎間板ヘルニア①	課題あり
16.5	頸椎椎間板ヘルニア②	課題あり
17.5	上腕骨外側上顆炎	課題あり
18.5	頸肩部治療まとめ	課題あり
19.5	頸肩部ロールプレイ	課題あり
20.5	期末試験①	
21.5	期末試験②	
22.5	期末試験③	

科目名	応用実技Ⅳ	時間・単位	1単位・45時間（22.5コマ）
担当教員	松岡 晋也 重高 広和		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	伝統医学における鍼灸臨床は四診法を行い、弁証論治に基づく処方と配穴で治療を行う。応用実技Ⅱで学習した内容に加え、応用実技Ⅳにおいては、四診より弁証論治を導きだし、自分で処方・配穴・治療ができることを目標とする。		
授業内容	1)弁証 2)論治(治則・治法) 3)処方(配穴法・特効穴) について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	気虚の処方・配穴・治療	
2	気滞の処方・配穴・治療	
3	血虚の処方・配穴・治療	
4	脾気虚・脾陽虚・脾虚湿盛の処方・配穴・治療	
5	肝鬱気滞・肝火上炎の処方・配穴・治療	
6	食滞胃脘・胃火上炎の処方・配穴・治療	
7	痰湿の処方・配穴・治療	
8	特殊治療①	
9	特殊治療②	
10	特殊治療③	
11	表証（カゼ）の処方・配穴・治療	
12	肺気虚の処方・配穴・治療	
13	肺陰虚の処方・配穴・治療	
14	肝血虚の処方・配穴・治療	
15	脾胃湿熱の処方・配穴・治療	
16	腎気虚・腎陽虚の処方・配穴・治療	
17	肝脾不和・肝胃不和の処方・配穴・治療	
18	肝火犯肺・心肝火旺の処方・配穴・治療	
19	脾腎陽虚の処方・配穴・治療	
20	まとめ	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

科目名	総合実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	熊澤 亜由美 小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床実習 I・II で必要となる理学所見を学ぶ。 ・ 血圧測定 ・ 関節可動域 ・ 深部反射 ・ 病的反射 ・ 知覚検査 ・ 筋力検査 ・ 理学検査		
授業内容	臨床現場ではどのように診察を進めるのか、実際の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。		
成績評価	・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイド I・II	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	配付資料	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	血圧測定	
2	感覚検査・反射検査	
3	関節角度測定	
4	関節角度測定	
5	徒手筋力検査	
6	徒手筋力検査	
7	血圧・関節角度測定、反射・徒手筋力検査総合練習	
8	血圧・関節角度測定、反射・徒手筋力検査総合練習	
9	中間試験	
10	中間試験	
11	頰部の理学的検査	
12	肩部の理学的検査	
13	上肢の理学的検査	
14	腰背部の理学検査	
15	腰下肢の理学検査	
16	膝部の理学検査	
17	膝部の理学検査	
18	理学検査総合練習	
19	理学検査総合練習	
20	理学検査総合練習	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	総括	

科目名	臨床実習 I	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	重高 広和 北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	既習の「基礎実技」「解剖学」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学概論」等の知識と技術を総合し診察・治療の方法を学習する。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に選穴、鍼・灸の手技、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習、症例に対するロールプレイを行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイド I・II	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	回	講義内容	備考
1	1	臨床実践	
2	2	臨床実践	
3	3	臨床実践	
4	4	臨床実践	
5	5	臨床実践	
6	6	臨床実践	
7	7	臨床実践	
8	8	臨床実践	
9	9	臨床実践	
10	10	臨床実践	
11	11	臨床実践	
12	12	臨床実践	
13	13	臨床実践	
14	14	臨床実践	
15	15	臨床実践	
16	16	臨床実践	
17	17	臨床実践	
18	18	臨床実践	
19	19	臨床実践	
20	20	臨床実践	
21	21	臨床実践	
22	22	臨床実践	
23	23	臨床実践	
24	24	臨床実践	
25	25	臨床実践	
26	26	臨床実践	
27	27	期末試験	
28	28	期末試験	
29	29	期末試験	
30	30	期末試験	

科目名	臨床実習Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	重高 広和 北林 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床実習Ⅰで学んだことを生かし、ロールプレイや実際に外来患者を取り扱うことにより3年次での臨床実習をスムーズに開始できるように、患者さんとのコミュニケーションのとり方や配慮について学習する。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握し原因の推定、カルテの記載を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	期末試験	
28	期末試験	
29	期末試験	
30	期末試験	

科目名	総合領域Ⅱ	時間・単位	150時間・5単位・75コマ
担当教員	鍼灸学科教員全員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	この授業の目的は、2年次に学ぶすべての分野において総合的に復習するもので、専門基礎分野では解剖学・生理学を復習し、これらをベースに病態生理を把握し、臨床医学総論と各論を習得する。また、専門分野においては東洋医学概論・はりきゅう理論を復習し、東洋医学臨床論を習得するものとする。		
授業内容	以下の項目に準じて授業を行う。 総合領域Ⅱ：解剖学Ⅳ、生理学Ⅱ・Ⅲ、臨床医学総論Ⅰ・Ⅱ、臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、はりきゅう理論Ⅱ、東洋医学概論Ⅲ、東洋医学臨床論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 上記の内容を担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅱの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（日程表確認のこと）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	日付	内容	回	日付	内容	回	日付	内容
1	5/7	東臨Ⅰ①	31	10/23	実力テスト①	61	2/5	東臨Ⅲ④
2	5/8	生理Ⅱ①	32	10/23	東臨Ⅲ①	62	2/6	はきⅡ④
3	5/8	各論Ⅲ①	33	10/25	解剖Ⅳ①	63	2/10	生理Ⅲ④
4	5/8	東概Ⅲ①	34	10/29	はきⅡ①	64	2/12	テスト④解説
5	5/13	東臨Ⅱ①	35	10/30	テスト①解説	65	2/17	総論Ⅱ④
6	5/13	総論Ⅰ①	36	11/6	各論Ⅱ①	66	2/18	各論Ⅱ④
7	6/4	東臨Ⅰ②	37	11/11	生理Ⅲ①	67	2/26	実力テスト⑤
8	6/5	生理Ⅱ②	38	11/12	各論Ⅰ①	68	2/27	各論Ⅰ⑤
9	6/5	各論Ⅲ②	39	11/20	実力テスト②	69	2/27	はきⅡ⑤
10	6/5	東概Ⅲ②	40	11/20	東臨Ⅲ②	70	2/28	解剖Ⅳ⑤
11	6/10	東臨Ⅱ②	41	11/22	解剖Ⅳ②	71	3/4	各論Ⅱ⑤
12	6/10	総論Ⅰ②	42	11/26	はきⅡ②	72	3/5	テスト⑤解説
13	7/2	東臨Ⅰ③	43	11/27	テスト②解説	73	3/5	東臨Ⅲ⑤
14	7/3	生理Ⅱ③	44	12/2	総論Ⅱ①	74	3/6	総論Ⅱ⑤
15	7/3	各論Ⅲ③	45	12/9	生理Ⅲ②	75	3/7	生理Ⅲ⑤
16	7/3	東概Ⅲ③	46	12/12	各論Ⅰ②			
17	7/8	東臨Ⅱ③	47	12/18	実力テスト③			
18	7/8	総論Ⅰ③	48	12/18	東臨Ⅲ③			
19	7/30	東臨Ⅰ④	49	12/20	解剖Ⅳ③			
20	7/31	生理Ⅱ④	50	1/6	総論Ⅱ②			
21	7/31	各論Ⅲ④	51	1/6	はきⅡ③			
22	8/26	東臨Ⅱ④	52	1/7	各論Ⅱ②			
23	8/26	総論Ⅰ④	53	1/8	生理Ⅲ③			
24	8/28	東概Ⅲ④	54	1/9	各論Ⅰ③			
25	9/17	東臨Ⅰ⑤	55	1/15	テスト③解説			
26	9/18	生理Ⅱ⑤	56	1/22	各論Ⅱ③			
27	9/18	各論Ⅲ⑤	57	1/28	総論Ⅱ③			
28	9/25	東臨Ⅱ⑤	58	1/30	各論Ⅰ④			
29	9/25	総論Ⅰ⑤	59	1/31	解剖Ⅳ④			
30	9/25	東概Ⅲ⑤	60	2/5	実力テスト④			

鍼灸学科 昼間1部 3年生

	授業科目名	担当教員名	実務経験 有無	時間数	単位数	コマ数
専門基礎 分野	リハビリテーション学Ⅰ	武田 涼子	—	30	1	15
	リハビリテーション学Ⅱ	武田・小野	—	30	1	15
	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	兼平 孝	—	30	2	15
専門 分野	東洋医学臨床論Ⅳ	長谷川 直子	◎	30	2	15
	東洋医学臨床応用	小野寺 智哉	◎	30	2	15
	病態生理学	飯塚 正	◎	30	2	15
	社会はりきゅう学	伊藤 才二	◎	30	2	15
	臨床実技Ⅰ	熊澤 亜由美	◎	45	1	22.5
	臨床実技Ⅱ	長谷川 直子	◎	45	1	22.5
	臨床実技Ⅲ	小野寺 智哉	◎	45	1	22.5
	臨床実技Ⅳ	山賀 真知子	◎	45	1	22.5
	総合実技Ⅱ	亀山・上尾	◎	45	1	22.5
	総合実技Ⅲ	重高・上尾	◎	45	1	22.5
	臨床実習Ⅲ	山賀・松岡	◎	45	1	30
	臨床実習Ⅳ	山賀・松岡	◎	45	1	30
	総合領域Ⅲ	長谷川・上尾	◎	60	2	30
	総合領域Ⅳ	鍼灸学科教員	◎	60	2	30
	総合領域Ⅴ	岸野・伊藤・熊澤	◎	120	4	60
合計				810	28	420

科目名	リハビリテーション学 I	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	武田 涼子		
教育目標	<p>「リハビリ」という言葉は、スポーツ選手の運動機能回復や脳卒中、心疾患などにより社会復帰・参加をなしとげる過程でよく耳にするが、これらはリハビリテーションの概念の一つであり、真の意味は『人間らしく生きる権利の回復』である。</p> <p>リハビリテーションの医療的なサポートはその中核をなし、医療に携わるものがリハビリテーション学について正しい知識をもつことは大切である。</p> <p>本授業では、鍼灸師に必要なリハビリテーション学の知識を習得することを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション総説 2. 各疾患のリハビリテーション 3. 運動のしくみ 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	リハビリテーション ビジュアルブック	著者名	落合慈之、稲川利光
		出版社名	学研メディカル秀潤社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	リハビリテーションの概要	
2	医学的リハビリテーションの概要	
3	障害の評価	
4	リハビリテーション治療	
5	運動学	
6	脳卒中のリハビリテーション	
7	中間試験	
8	脊髄損傷のリハビリテーション	
9	切断のリハビリテーション	
10	小児のリハビリテーション	
11	呼吸器・循環器疾患のリハビリテーション	
12	運動器疾患のリハビリテーション	
13	神経疾患のリハビリテーション	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	リハビリテーション学Ⅱ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	武田 涼子 小野 直也		
教育目標	リハビリテーション学Ⅰを踏まえ、鍼灸師に必要なリハビリテーション学についてさらなる理解力と応用力を身につける。		
授業内容	過去に出題されたリハビリテーション学の国家試験問題等を活用し、より一層の理解を計る。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	リハビリテーション ビジュアルブック	著者名	落合慈之、稲川利光
		出版社名	学研メディカル秀潤社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	リハビリテーションの理念について	
2	医学的リハビリテーションの概要	小テスト・問題演習あり
3	障害の評価について	小テスト・問題演習あり
4	リハビリテーション治療について	小テスト・問題演習あり
5	運動学	小テスト・問題演習あり
6	脳卒中のリハビリテーション	小テスト・問題演習あり
7	中間試験	
8	脊髄損傷のリハビリテーション	小テスト・問題演習あり
9	切断のリハビリテーション	小テスト・問題演習あり
10	小児のリハビリテーション	小テスト・問題演習あり
11	呼吸器・循環器疾患のリハビリテーション	小テスト・問題演習あり
12	運動器疾患のリハビリテーション	小テスト・問題演習あり
13	神経疾患のリハビリテーション	小テスト・問題演習あり
14	期末試験	
15	解説	

科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	兼平 孝		
教育目標	<p>公衆衛生学とは、人間の生存に影響を及ぼすさまざまな関係要因をふまえ、健康の保持・増進を目的とする学問である。</p> <p>公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。</p>		
授業内容	<p>授業は過去の国家試験問題とその類題を演習しながら、理解するために必要な知識や理論について解説していきたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	衛生学・公衆衛生学	著者名	鈴木 庄亮 他
		出版社名	東洋療法学校協会 編
参考書	公衆衛生がみえる	著者名	医療情報科学研究所
		出版社名	メディックメディア

回	講義内容	備 考
1	公衆衛生学と健康	
2	ライフスタイルと健康	
3	環境と健康 1	
4	環境と健康 2	
5	産業保健	
6	精神保健	
7	中間試験	
8	母子保健	
9	成人・高齢者保健	
10	感染症 1	
11	感染症 2	
12	消毒	
13	疫学	
14	保健統計	
15	期末試験	

科目名	東洋医学臨床論Ⅳ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	国家試験における東洋医学概論・東洋医学臨床論の総復習並びに、それらの問題を解答する過程で東洋医学の知識を多用する問題の得点率を引き上げることが目的とする。		
授業内容	臨床現場で培った経験を基に具体的な経験談などアドバイスをし、東洋医学理論の基礎である陰陽・五行・精気血津液の諸学説及び蔵象・病因論・病理病証・診断論・治療論並びに臨床の複合問題を総復習を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・小テストを実施し成績に加味する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	東洋医学の思想（陰陽・五行）	
2	生理と病理（気血津液）	
3	病因病機（六淫）	
4	弁証論治	
5	中間試験①	
6	経絡弁証・四診	
7	蔵象①	
8	蔵象②	
9	補瀉法・刺法	
10	中間試験②	
11	舌・脈所見	
12	傷寒論的腹証・『難経六十九難・七十五難』	
13	東洋医学臨床論	各疾患の弁証論治
14	東洋医学臨床論	各疾患の弁証論治
15	試験解説	

科目名	東洋医学臨床応用	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	現代医学的な考えとは、現代医学の知識・技術などを鍼灸の診察、治療に応用しようとする考え方である。現代医学的な考え方をもとに鍼灸治療の対象となる疾患について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、必要な診察法の過程に主要な徒手検査法を学び、適切な鍼灸治療を行うための知識を習得させることを教育目標とする。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で主に、治療と診断、症候に対する東西両医学からのアプローチ、疾患に対する東西両医学からのアプローチ、高齢者に対する鍼灸施術、スポーツ領域における鍼灸施術について学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	東洋医学臨床論（はりきゅう編）	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	神経・筋疾患①	
2	神経・筋疾患②	
3	神経・筋疾患③	
4	神経・筋疾患④	
5	運動器疾患①	
6	運動器疾患②	
7	運動器疾患③	
8	スポーツ障害①	
9	スポーツ障害②	
10	呼吸器疾患、循環器疾患	
11	消化器疾患、腎・泌尿器疾患	
12	婦人科疾患、耳鼻咽喉疾患、老年医学	
13	診断と治療、その他の疾患、検査法	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	病態生理学	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、病理学等の基礎医学について、再度学習し、基礎医学に関する知識を確かなものにするを教育目標とする。		
授業内容	病理学概論を中心とした病因や病態について復習するとともに、多くの練習問題などを活用し実践的に知識の再確認を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験や小試験などを実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	病理学概論、プリント	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	病因、退行性病変 1	
2	循環障害、進行性病変 1	
3	炎症、免疫 1	
4	腫瘍、先天性疾患 1	
5	まとめ試験 1	
6	病因、退行性病変 2	
7	循環障害、進行性病変 2	
8	炎症、免疫 2	
9	腫瘍、先天性疾患 2	
10	まとめ試験 2	
11	病因、退行性病変3	
12	循環障害、進行性病変3	
13	炎症、免疫3	
14	腫瘍、先天性疾患3	
15	まとめ試験3 (終)	

科目名	社会はりきゅう学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	介護職員として長年勤務した後、鍼灸資格を取得、専任教員として従事する。		
教育目標	はりきゅう理論Ⅰ・はりきゅう理論Ⅱを踏まえ、鍼灸臨床での用具、手技、作用機序及び人体の生理学等について更なる理解力と応用力を身につける。		
授業内容	過去に出題された「はり理論」と「きゅう理論」の国家試験問題等を活用し、より一層の理解を計る。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式	
3	特殊鍼法	
4	灸の基礎知識	
5	灸術の種類	
6	リスク管理	
7	中間試験	
8	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識①	
9	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識②	
10	鍼灸治効機序①	
11	鍼灸治効機序②	
12	鍼灸治効機序と臨床の接点①	
13	鍼灸治効機序と臨床の接点②	
14	期末試験	
15	まとめ	

科目名	臨床実技 I	時間・単位	1単位・45時間 (22.5コマ)
担当教員	熊澤 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	実際の臨床において、遭遇しやすい症状を取り上げて、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。		
授業内容	レディース鍼灸の中でも、月経異常や不妊症など女性特有の症状や美容鍼灸について重点的に学び、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイド I・II	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	レディース鍼灸	著者名	矢野 忠
		出版社名	医歯薬出版株式会社

回	講義内容	備考
1	ROM、皮膚分節、知覚検査	
2	深部腱反射、病的反射、MMT	
3	TOSの概要、検査、TOSの治療	
4	手根管、肘部管、Guyon管症候群	
5	思春期のマイナートラブル	
6	思春期のマイナートラブル	
7	性成熟期のマイナートラブル	
8	性成熟期のマイナートラブル	
9	妊娠期のマイナートラブル	
10	妊娠期のマイナートラブル	
11	更年期・老年期のマイナートラブル	
12	更年期・老年期のマイナートラブル	
13	神経痛	
14	顎関節症、眼精疲労	
15	美容鍼灸	
16	美容鍼灸	
17	治療のまとめ①	
18	治療のまとめ②	
19	期末試験	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	総括	

科目名	臨床実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>伝統医学における鍼灸臨床に必要な、四診法を行い、弁証論治に基づき、自分なりの処方と配穴で治療を行い、治療前後での主訴の変化（指標の変化）を確認する。</p> <p>先ず、四診法から弁証論治を行い、次に要穴や五俞穴の特性、経絡・経筋等を理解し、最終的には、伝統医学的に病態を把握し、基礎理論に基づき配穴治療できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <p>1. 四診法と指標の変化・2. 経絡流注・3. 難経六十八難・4. 難経六十九難 5. 経筋治療（経筋の流注、榮穴と俞穴の特性）・6. 変動経絡検索法（井穴、経穴、下合穴、絡穴の特性）・7. 奇経治療（流注と八総穴）・8. その他の治療法。 これらの項目を臨床経験を持つ専任教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</p>		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	脊柱の取り方	
2	脊柱の取り方	
3	『難経』六十九難と背部俞穴	
4	『難経』六十九難と背部俞穴	
5	四診法による診断、五俞穴	
6	四診法による診断、経筋治療	
7	四診法による診断、郄会配穴③	
8	四診法による診断、色々な配穴①	
9	中間試験	
10	中間試験	
11	中間試験	
12	変動経絡療法①	
13	変動経絡療法②	
14	奇経治療①	
15	奇経治療②	
16	東洋医学的診断・治療①	
17	東洋医学的診断・治療②	
18	期末試験の概要	
19	期末試験の練習	
20	期末試験の練習	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

科目名	臨床実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	スポーツ領域の愁訴を現代鍼灸の立場から把握することを目的とする。そのために、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。		
授業内容	主に、以下の点について学んでいく。 ①スポーツ傷害・障害などのスポーツ特有の症状を理解する。②スポーツ領域の愁訴を現代医学的に把握する。③スポーツ現場の経験を活かした視点でアドバイスをしながら、鍼灸の実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸療法技術ガイドⅠ、Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	スポーツ疾患に対する治療方針	姿勢分析含む
2	スポーツ疾患に関する上肢の診察	テニス肘
3	スポーツ疾患に関する上肢の診察	ゴルフ肘
4	スポーツ疾患に関する上肢の診察	野球肩
5	スポーツ疾患に関する上肢の診察	上肢の筋力テスト
6	スポーツ疾患に関する体幹の診察	運動性腰痛
7	スポーツ疾患に関する体幹の診察	肩こり
8	スポーツ疾患に関する下肢の診察	肉離れ
9	スポーツ疾患に関する下肢の診察	膝靭帯損傷
10	スポーツ疾患に関する下肢の診察	ジャンパー膝
11	スポーツ疾患に関する下肢の診察	ランナー膝
12	スポーツ疾患に関する下肢の診察	鷲足炎
13	スポーツ疾患に関する下肢の診察	シンスプリント
14	スポーツ疾患に関する下肢の診察	オスグッド病
15	スポーツ疾患に関する下肢の診察	アキレス腱炎
16	スポーツ疾患に関する下肢の診察	足底筋膜炎
17	スポーツ疾患に関する下肢の診察	足関節捻挫
18	スポーツ疾患まとめ①	
19	スポーツ疾患まとめ②	
20	スポーツ疾患まとめ③	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

科目名	臨床実技IV	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山賀 真知子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>現代鍼灸の立場から、身体を観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、各疾患の現代医学的治療を理解し、適切な鍼灸治療法を体得する。高齢者に多い疾患の後遺症、筋力低下による歩行速度低下など老年特有の症状、各疾患の鑑別に必要な理学所見を復習し、最終的には、模擬患者に対し医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p> <p>また、常に治療前後での主訴の変化（指標の変化）を意識して行う。鍼灸初療者、高齢者に対する対応ができるようにする。</p>		
授業内容	<p>高齢や身体が不自由な方のケアなどを担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>臨床現場に出た際に即戦力となる授業を行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	頭痛	
2	肩こり	
3	めまい・耳鳴り・難聴	
4	ロールプレイ①	
5	脳卒中後遺症	
6	運動器疾患①	
7	排尿障害	
8	便秘・下痢	
9	運動器疾患②	
10	ロールプレイ②	
11	中間試験①	
12	中間試験①	
13	うつ	
14	認知症	
15	パーキンソン病	
16	帯状疱疹	
17	ロールプレイ③	
18	中間試験②	
19	中間試験②	
20	治療まとめ	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	治療まとめ	

科目名	総合実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	亀山 千尋 上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で実際に使われている手技や治療機器等を理解、実践することにより、鍼灸治療に必要な技術向上を図る。		
授業内容	手技療法や超音波治療など臨床現場で卒業後必要とされる知識を身につける。鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実技Ⅱ①と②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①出席状況、②授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	手技療法の基礎1	
2	手技療法の基礎2	
3	手技療法の基礎3	
4	手技療法の基礎4	
5	手技療法の基礎5	
6	手技療法の基礎6	
7	手技療法の応用1	
8	手技療法の応用2	
9	手技療法と鍼灸治療について	
10	手技療法と鍼灸治療について	
11	低周波治療器の使い方と効果	
12	干渉派治療器の使い方と効果	
13	SSPの使い方と効果	
14	頸椎牽引機の使い方と効果	
15	腰椎牽引機の使い方と効果	
16	超音波の使い方と効果	
17	超音波の使い方と効果	
18	マイクロ波の使い方と効果、注意点	
19	罨法療法	
20	足関節の包帯の巻き方	
21	膝の包帯の巻き方	
22	物理療法の復習	
22.5	まとめ	

科目名	総合実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	重高広和 上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	近年国家試験では、「東洋医学概論」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学概論」にて経穴名ではなく、取穴部位、または取り方にて出題される傾向にある。そこで実際に正経十二経取穴・刺鍼を行い、取穴部位・取り方を習得する。		
授業内容	担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、正経十二経の取穴と正経十二経の刺鍼の項目にて授業を行う。 毎回の授業で要穴チェックの口頭試問と取穴をする。各自復習して臨むこと。経穴課題とミニテストを実施する。全て提出されていない場合、最終評価を取り消す。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	経絡経穴概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	手太陰肺経・手少陰心経の部位・筋肉・神経・作用	
2	手陽明大腸経の部位・筋肉・神経・作用	
3	足陽明胃経の部位・筋肉・神経・作用	
4	足陽明胃経の部位・筋肉・神経・作用	
5	足太陰脾経の部位・筋肉・神経・作用	
6	手太陽小腸経の部位・筋肉・神経・作用	
7	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	
8	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	
9	足太陽膀胱経の部位・筋肉・神経・作用	
10	中間試験	1～9回の内容
11	中間試験	
12	足少陰腎経の部位・筋肉・神経・作用	
13	手厥陰心包経・足厥陰肝経の部位・筋肉・神経・作用	
14	手少陽三焦経の部位・筋肉・神経・作用	
15	足少陽胆経の部位・筋肉・神経・作用	
16	足少陽胆経の部位・筋肉・神経・作用	
17	督脈の部位・筋肉・神経・作用	
18	任脈の部位・筋肉・神経・作用	
19	試験練習	
20	試験練習	
21	期末試験	1～20回の内容
22	期末試験	
22.5	総括	

科目名	臨床実習Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	山賀 真知子 松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の「基礎実習」「臨床医学各論」「東洋医学臨床論」等の知識と技術を総合して実際に外来患者を取り扱うことにより、診察・治療の方法を学習する。 2. 施術におけるリスク管理の徹底を図る。 3. 施術計画と施術の実際及び施術後の評価と問題のある症例に対する再検討。 4. 日常遭遇することの多い疾患の診察・施術パターンを身につけさせる。 		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、カルテの記載、臨床記録の記入、外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握できるようにする。また原因の推定と予後の判定、鍼灸施術の計画（選穴、鍼・灸の手技）、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習を行う。日常多く遭遇する症例については、治療パターンが定着できるようにする。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	オリエンテーション	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

科目名	臨床実習Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	山賀 真知子 松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の「基礎実習」「臨床医学各論」「東洋医学臨床論」等の知識と技術を総合して実際に外来患者を取り扱うことにより、診察・治療の方法を学習する。 2. 施術におけるリスク管理の徹底を図る。 3. 施術計画と施術の実際及び施術後の評価と問題のある症例に対する再検討。 4. 日常遭遇することの多い疾患の診察・施術パターンを身につけさせる。 		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、カルテの記載、臨床記録の記入、外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握できるようにする。また原因の推定と予後の判定、鍼灸施術の計画（選穴、鍼・灸の手技）、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習を行う。日常多く遭遇する症例については、治療パターンが定着できるようにする。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験(カンファレンス)等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	臨床実践	
28	臨床実践	
29	臨床実践	
30	臨床実践	

科目名	総合領域Ⅲ	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	長谷川 直子・上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	専門基礎分野および専門分野の総復習をし、 国家試験の合格に必要な知識を習得する事を目的とする。		
授業内容	担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、以下の項目について授業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅲ①：臨床医学総論・臨床医学各論 ・総合領域Ⅲ②：東洋医学概論・東洋医学臨床論 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅲ①と②のそれぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・それぞれ担当の教員において60点以上を合格とする。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		
教科書	臨床医学総論 臨床医学各論 東洋医学概論	著者名	奈良信雄 他 教科書執筆小委員会
		出版社名	医歯薬出版株式会社 医道の日本社
参考書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容①	備 考	回	講義内容②	備 考
1	合同模試①		1	合同模試①	
2	合同模試①解説		2	東洋	小テスト
3	西洋		3	東洋	小テスト
4	西洋		4	東洋	小テスト
5	西洋		5	東洋	小テスト
6	西洋		6	東洋	小テスト
7	西洋		7	中間試験	
8	西洋		8	東洋	小テスト
9	西洋		9	東洋	小テスト
10	西洋		10	東洋	小テスト
11	西洋		11	東洋	小テスト
12	西洋		12	東洋	小テスト
13	西洋		13	期末試験	
14	西洋		14	合同模試④	
15	西洋		15	合同模試④	

科目名	総合領域IV	時間・単位	60時間・2単位・30コマ
担当教員	鍼灸学科教員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	国家試験に合格することのできる総合的学力を身につけることを目標とする。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で医療概論・公衆衛生学・関係法規・解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論・臨床医学各論・リハビリテーション医学・東洋医学概論・経絡経穴概論・東洋医学臨床論・はりきゅう理論等について講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	第1回中間試験	
2	第1回中間試験	
3	第1回中間試験解説	
4	第2回中間試験	
5	第2回中間試験	
6	第2回中間試験解説	
7	第3回中間試験	
8	第3回中間試験	
9	第3回中間試験解説	
10	第4回中間試験（合同模試②）	
11	第4回中間試験（合同模試②）	
12	第4回中間試験（合同模試②）解説	
13	第5回中間試験	
14	第5回中間試験	
15	第5回中間試験解説	
16	第6回中間試験	
17	第6回中間試験	
18	第6回中間試験解説	
19	第7回中間試験（合同模試③）	
20	第7回中間試験（合同模試③）	
21	第7回中間試験（合同模試③）解説	
22	第8回中間試験	
23	第8回中間試験	
24	第8回中間試験解説	
25	第9回中間試験	
26	第9回中間試験	
27	第9回中間試験解説	
28	期末試験	
29	期末試験	
30	期末試験解説	

科目名	総合領域V	時間・単位	120時間・4単位・60コマ
担当教員	岸野 庸平 伊藤 才二 熊澤 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	2年生終了時までの間に学習した、解剖学・生理学等の基礎医学について、これらを統合した形で再度学習する。それらに基づいて臨床医学に関する知識を確かなものにするを教育目標とする。		
授業内容	<p>担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的にアドバイスをし、以下の項目について授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合領域V①：解剖学 ・総合領域V②：生理学 ・総合領域V③：臨床医学各論 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域V①～③それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・①～③それぞれの授業について60点以上満たした場合にのみ成績評価を行う。 ・期末試験は授業時間内（（日程表確認のこと））に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	病気がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	メディックメディア

回	講義内容①	回	講義内容②	回	講義内容③
1	人体の構成	1	生理学の基礎	1	感染症
2	循環器系①（動脈、静脈）	2	血液	2	消化管疾患
3	循環器系②（静脈、リンパ系、胎児循環）	3	循環①（心臓）	3	肝・胆・膵疾患①
4	呼吸器系	4	循環②（血管）	4	肝・胆・膵疾患②
5	消化器系①（消化管）	5	呼吸	5	呼吸器疾患①
6	消化器系②（肝臓、胆のう、膵臓、腹膜後器官）	6	消化と吸収	6	呼吸器疾患②
7	泌尿器系	7	代謝	7	各論試験
8	生殖器系	8	体温	8	腎・尿器疾患①
9	内分泌系	9	排泄	9	腎・尿器疾患②
10	神経系①（中枢神経系）	10	内分泌	10	内分泌疾患
11	神経系②（末梢神経、自律神経）	11	生殖と成長	11	代謝栄養疾患
12	感覚器系	12	神経①（神経基礎）	12	循環器疾患①
13	骨格系①（概要、脊柱、胸郭、頭蓋）	13	神経②（中枢神経）	13	循環器疾患②
14	骨格系②（上肢の骨、下肢の骨）	14	神経③（末梢神経）	14	各論試験
15	筋系①（体幹の筋）	15	筋	15	血液・造血器疾患
16	筋系②（上肢の筋）	16	身体の運動	16	神経疾患①
17	筋系③（下肢の筋）	17	感覚器系	17	神経疾患②
18	筋系④（頭頸部の筋）	18	生体の防御機構・ホメオス	18	神経疾患③
19	解剖学試験	19	生理学試験	19	膠原病
20	解剖学まとめ	20	生理学まとめ	20	各論試験

鍼灸学科 2部 1年生

	授業科目名	担当教員名	実務経験 有無	時間数	単位数	コマ数
基礎 分野	からだの仕組みⅠ	滝田 裕子	—	30	2	15
	からだの仕組みⅡ	滝田 裕子	—	30	2	15
	からだの働きⅠ	飯塚 正	—	30	2	15
	からだの働きⅡ	飯塚 正	—	30	2	15
	外国語	及川 陽子	—	30	2	15
	健康科学	新井田 和夫	—	30	2	15
	コミュニケーション	後藤 聡	—	30	2	15
専門基礎 分野	解剖学Ⅰ	山本 恒之	—	30	2	15
	解剖学Ⅱ	山本 恒之	—	30	2	15
	解剖学Ⅲ	山本 恒之	—	30	2	15
	生理学Ⅰ	上尾 慎	—	30	2	15
	衛生学・公衆衛生学Ⅰ	兼平 孝	—	30	2	15
	医療概論	上尾 慎	◎	15	1	7.5
専門 分野	はりきゅう理論Ⅰ	小野寺 智哉	◎	30	2	15
	東洋医学概論Ⅰ	松岡 晋也	◎	30	2	15
	東洋医学概論Ⅱ	松岡 晋也	◎	30	2	15
	経絡経穴概論Ⅰ	長谷川 直子	◎	30	2	15
	経絡経穴概論Ⅱ	長谷川 直子	◎	30	2	15
	あはきの適応の判断	伊藤 才二	◎	30	2	15
	生体観察	山本 恒之	◎	30	2	15
	基礎実技Ⅰ	小野寺 智哉	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅱ	長谷川 直子	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅲ	小野寺 智哉	◎	45	1	22.5
	基礎実技Ⅳ	上尾 慎	◎	45	1	22.5
	総合領域Ⅰ	鍼灸学科教員	◎	180	6	90
	合計				945	49

科目名	からだの仕組み I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	滝田 裕子		
教育目標	<p>人体はさまざまなからだの仕組みが機能することにより生命活動をおこなっている。複雑なからだの仕組みや機能を理解するため、まずからだの構造について学ぶ。次にからだを構成している細胞、からだの構成物質である糖質、脂質、タンパク質、遺伝子などについての知識を習得し、さまざまなからだの仕組みを理解する。また生命科学に関連する最先端の情報について、その背景も含めて現状を正しく把握する力をつけていく。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. からだの構造 2. からだを構成する細胞 3. からだの設計図 4. からだを維持するしくみ 5. からだの寿命 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	みんなの生命科学	著者名	北口哲也 他
		出版社名	化学同人

回	講義内容	備考
1	からだの構造の概要	
2	からだを動かすエネルギー	
3	からだ（生命体）の基本単位である細胞	
4	細胞内小器官の働き	
5	遺伝子の構造と機能	
6	遺伝のしくと遺伝病	
7	からだを構成する物質（糖質）	
8	からだを構成する物質（脂質）	
9	からだを構成する物質（タンパク質）	
10	からだを構成する物質（ビタミン・ミネラル）	
11	からだを維持するためのしくみ1	
12	からだを維持するためのしくみ2	
13	からだの寿命	
14	期末試験	
15	試験問題の解説	

科目名	からだの仕組みⅡ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	滝田 裕子		
教育目標	からだの4大組織である上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織について学び、それらがどのような仕組みで機能することにより、複雑な生命活動を担っているのかを理解する。また受精と発生の仕組み、外敵に対する生体防御の仕組みについて学び、医療専門分野に進むために必要な基礎知識を習得する。		
授業内容	<p>以下の項目について講義する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. からだを構成する組織（上皮・結合・筋肉・神経） 2. ヒトの受精 3. ヒトの発生 4. からだを外敵から守るしくみ 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	みんなの生命科学	著者名	北口哲也 他
		出版社名	化学同人

回	講義内容	備考
1	からだの組織の概要	
2	上皮組織 1	
3	上皮組織 2	
4	結合組織 1	
5	結合組織 2	
6	筋組織 1	
7	筋組織 2	
8	神経組織 1	
9	神経組織 2	
10	ヒトの受精	
11	ヒトの発生	
12	生体防御 1	
13	生体防御 2	
14	期末試験	
15	試験問題の解説	

科目名	からだの働き I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に呼吸器系および泌尿器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鼻腔・咽頭・喉頭・気管(支)・肺の構造と機能 2. 肺胞におけるガス交換・換気量 3. 呼吸の調節機構 4. 泌尿器系の構造と機能 5. 腎臓と働きと尿生成 6. 泌尿器系の一般的な作用機序 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・なお、中間試験や授業時間内で小テストを行うこともある。期末試験、中間試験、小テストなどを合計し100点満点で成績を評価する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	『解剖学』、『生理学』	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	鼻腔、喉頭	
2	気管、肺	
3	肺胞、呼吸運動	
4	呼吸機能、酸素解離、換気	
5	呼吸調節	
6	呼吸器疾患	
7	中間試験	
8	中間試験の解説	
9	腎解剖、ネフロン	
10	腎機能	
11	尿管、膀胱、尿道	
12	排尿仕組み	
13	泌尿器疾患	
14	期末試験	
15	期末試験の解説	

科目名	からだの働きⅡ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に生殖器系および内分泌系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生殖器系の構造と機能 2. 男性、女性の生殖器 3. ホルモンの一般的な作用機序 4. 各ホルモンの作用 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・なお、中間試験や授業時間内で小テストを行うこともある。期末試験、中間試験、小テストなどを合計し100点満点で成績を評価する ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	『解剖学』、『生理学』	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	性分化、2次性徴	
2	男性生殖器、精子形成	
3	女性生殖器1	
4	女性生殖器2、性周期	
5	受精、妊娠、胎盤	
6	遺伝、生殖器疾患	
7	中間試験	
8	中間試験の解説	
9	ホルモン概要、視床下部	
10	下垂体・松果体	
11	甲状腺・上皮小体、膵臓	
12	副腎・性腺	
13	消化管、腎臓	
14	期末試験	
15	期末試験の解説	

科目名	外国語	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	及川 陽子		
教育目標	国際化する社会において、医療の世界にも外国人への医療行為が必要となってきた。ただしそれは必ずしも難解な知識や概念を必要とするものではない。この講義では、医療に関する語彙を知り、現場での医療行為に役立つ基本的な英語力を身につけることを目標とする。		
授業内容	英語という言語を使つての他者とのコミュニケーション力をつけるため、医療の現場で実際に使われる英会話を学ぶ。 具体的には、基本的な文法の確認、医学英語の基礎知識をふまえた上で 「英語を聞く」 「英語を読む」 「英語を話す」練習をする。 「英語を書く」ことも視野にいれ、適宜、資料を配布し、課題や小テストを行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	Basic English for Medical Care	著者名	Hiromi Koga
		出版社名	Yumi Press
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	はじめに・自己紹介する	
2	挨拶する	
3	案内は分かりやすくする	
4	個人情報聞きとり管理する	
5	指示や依頼をする	
6	相手を見て対応する	
7	確認・質問事項を準備する	
8	アレルギーや紹介状の有無を確認する	
9	行為をうながす	
10	的確な指示のもとで援助する	
11	説明は丁寧にする	
12	食物摂取は治療の一環と心得る	
13	患者と医師の間の橋渡しをする	
14	電話応対は短くする	
15	筆記試験	

科目名	健康科学	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	新井田 和夫		
教育目標	<p>健康に恵まれ、楽しく豊かな生涯をおくりたいとのねがいはだれもがもっている。日々の生活に潤いと充実感をもたらす、一人ひとりが生き生きとした生活をするためには個々に応じた適切な運動やスポーツ活動は欠かせないものである。本授業では、ストレッチングはスポーツ障害を起こさない準備運動として開発されたが、現在医学の分野でも大きな効果をあげている。目的に合った正しいストレッチングを理解させ、習得させることを指導方針とする。</p>		
授業内容	<p>学生の年齢構成や男女混成であること、施設が手狭であることを考慮し、基本的な技術を学習し、機能解剖を理解させ、運動療法、ストレッチングの基本的な知識と基本技術の習得を行う。臨床の場でストレッチングを効果的に使えるように学習して行く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ペア・ストレッチング 2. ストレッチング応用編（テクニク） 3. 疾患別ストレッチング・プログラム 4. 障害予防の筋力トレーニング＋ストレッチング＋キネシオテーピング 5. 体幹トレーニング 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	

参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	オリエンテーション	
2	座学 (スポーツ健康科学)	
3	座学 (スポーツ健康科学)	
4	実技 (体幹トレーニング)	
5	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
6	実技 (体幹トレーニング)	
7	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
8	実技 (体幹トレーニング)	
9	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
10	実技 (体幹トレーニング)	
11	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
12	実技 (体幹トレーニング)	
13	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	
14	実技 (体幹トレーニング)	
15	実技 (ストレッチング+キネシオテーピング)	

科目名	コミュニケーション	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	後藤 聡		
教育目標	<p>コミュニケーションとは情報伝達という意味であり、臨床場面には不可欠である。臨床の対象になる人間と良好な関係を維持するためには、相手を理解することだけでは不十分である。人間関係や社会とのコミュニケーションを通じて生じる心理現象を知り、相手や自分に及ぼすその影響などを理解すること、自分の聴き方と話し方が相手に対してどのように影響するのかに気づき、必要に応じて自分を望ましい方向へ調整することも必要である。以上を考慮して本講義の目標を以下とする。</p> <p>◎日常の人間関係におけるコミュニケーションから生じる心理現象について広く理解する。 ◎個人との人間関係や社会生活において影響を受けるコミュニケーションについて理解する。 ◎臨床場面で不安や悩みなどを抱える人と良好な関係を形成、維持するために必要な対話を実践できる応用的な知識を身につける。</p>		
授業内容	<p>コミュニケーションは多岐にわたっており、人間以外の動物社会にも存在するが、本授業では人間社会に限定する。人間間のコミュニケーション、社会とのコミュニケーション、カウンセリングにおけるコミュニケーションに分類し、日常の人間関係や社会との関わりで生じる心理現象、カウンセリングという人間関係における話の聴き方について論じる。毎回異なったテーマを設け、理論、具体的事例、科学的根拠となる実証的研究成果を含めて、アクティビティや発問などを取り入れながら授業を展開する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内に実施する。 ・ 再試験は期末試験終了後、授業時間外に実施する。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 試験等には試験の他に提出物を含む。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	講義内容	備考
1	授業の概要説明・思考のトレーニング	
2	I 人間間のコミュニケーション (1) 対人コミュニケーション	
3	(2) 自己呈示	
4	(3) ステレオタイプ	提出物あり
5	(4) 対人認知	提出物あり
6	(5) 援助	提出物あり
7	(6) 攻撃	提出物あり
8	II 社会とのコミュニケーション (1) 社会的現実	提出物あり
9	(2) うわさ	
10	(3) 社会的ジレンマ	提出物あり
11	(4) 社会の中の誤り	提出物あり
12	III カウンセリングにおけるコミュニケーション (1) カウンセリングとは	提出物あり
13	(2) カウンセリングにおける基本的態度1	提出物あり
14	(3) カウンセリングにおける基本的態度2	提出物あり
15	期末試験	

科目名	解剖学 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に身体を支持する骨・関節および運動に関わる骨格筋を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系概要 2. 骨について 3. 関節について 3. 骨格筋について 4. その他の筋について 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	骨格系、筋系総論	
2	全身の骨格（脊柱）	
3	全身の骨格（上肢の骨格）	
4	全身の骨格（下肢の骨格）	
5	全身の骨格（頭蓋骨）	
6	体幹の筋・運動・局所解剖①	
7	中間試験	
8	体幹の筋・運動・局所解剖②	
9	上肢の筋・運動・局所解剖①	
10	上肢の筋・運動・局所解剖②	
11	下肢の筋・運動・局所解剖①	
12	下肢の筋・運動・局所解剖②	
13	頭頸部の筋・局所解剖	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	解剖学Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生である1年次学生が、人体の正常な構造と機能、特に神経系および感覚器系を統合的に理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経の基本構造・組織構造 2. 中枢神経系 3. 末梢神経系 4. 感覚器 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		
教科書	解剖学	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版社
参考書	病気が見える脳・神経	著者名	岡庭豊
		出版社名	メディックメディア
持ち物	ノート及び4色以上のペン		

回	講義内容	備考
1	神経系の構成	
2	中枢神経系（脊髄、延髄、橋、中脳）	
3	中枢神経系（小脳、間脳）	
4	中枢神経系（大脳）	
5	中枢神経系（脳室系）	
6	中枢神経系（髄膜、脳脊髄液、脳の血管）	
7	中間試験	
8	末梢神経系（脳神経）	
9	末梢神経系（脊髄神経）	
10	末梢神経系（自律神経）	
11	伝導路	
12	感覚器系（視覚器）	
13	感覚器系（平衡感覚器、味覚器）	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	解剖学Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教育目標	この授業の目的は、循環器系および消化器系における人体の正常な構造と機能を理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <p>①循環器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓の構造 ・動脈・静脈 ・リンパ管 <p>②消化器系</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔・咽頭・食道・胃・十二指腸・空腸・回腸・結腸・直腸・肛門 ・肝臓、胆嚢、膵臓 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	全国柔道整復学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書	講義資料の配付	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	循環器 (概論)	授業後に小テスト・確認テストを実施することがある。
2	心臓の構造	
3	心臓の働き	
4	動脈系 (全身・上肢)	
5	動脈系 (体幹・下肢)	
6	静脈系・胎児循環	
7	リンパ系・循環調節	
8	中間試験	
9	消化器総論・口腔	
10	歯・舌・咽頭	
11	食道・胃	
12	小腸・大腸	
13	肝臓の構造	
14	肝臓の働き・胆嚢・膵臓	
15	期末試験	

科目名	生理学 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	上尾 慎		
教育目標	この授業の目的は、人体の生理機能である、生体防衛および人体の恒常性（ホメオスタシス）についての基本的知識を理解し、他の基礎科目や専門科目を学ぶ上での基礎を確立することにある。		
授業内容	<p>以下の内容について講義する。</p> <p>①生体防衛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液 ・免疫 ・アレルギーと炎症 <p>②人体恒常性（ホメオスタシス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養と代謝 ・体温 ・血圧と循環量の調節 ・体液 ・バイオリズム 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	生理学	著者名	(公社) 東洋療法学校協会編
		出版社名	医歯薬出版(株)
参考書	講義資料を配付	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	生理学基礎 細胞	授業後に小テスト・確認テストを実施することがある
2	生理学基礎 細胞	
3	生理学基礎 体液	
4	生理学基礎 体液	
5	生理学基礎 血球	
6	生理学基礎 血液凝固	
7	生理学基礎 循環 心臓	
8	生理学基礎 循環 心臓	
9	生理学基礎 循環 肺	
10	生理学基礎 循環 肺	
11	生理学基礎 外呼吸	
12	生理学基礎 外呼吸	
13	生理学基礎 神経	
14	生理学基礎 免疫細胞	
15	期末試験	

科目名	衛生学・公衆衛生学 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	兼平 孝		
教育目標	<p>公衆衛生学とは、疾病予防と健康の保持増進のための科学であり、活動である。</p> <p>公衆衛生学は社会制度を整備して、集団の健康を増進する幅の広い分野の学問であるので、国家レベルの社会制度の理解から、個人レベルの生活習慣病の予防に至るまでの広い理解が必要となる。</p>		
授業内容	<p>基本的に必要な資料はすべてプリントにて配布する。</p> <p>授業は教科書に基づきながら過去の国家試験問題を理解するために必要な知識や理論について学んでいきたい。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	公衆衛生がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	(株)メディックメディア
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	公衆衛生と健康の概念、疫学1	
2	疫学2、保健統計1	
3	保健統計2、医の倫理と医師法1	
4	医療法と医療体制、社会保障と医療経済、地域保健	
5	成人保健と健康増進	
6	母子保健	
7	中間試験	
8	高齢者保健、障害者福祉	
9	精神保健、歯科保健	
10	感染症対策	
11	食品保健と栄養	
12	学校保健、産業保健1	
13	産業保健2、環境保健1	
14	環境保健2、国際保健	
15	期末試験	

科目名	医療概論	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	上尾 慎		
教員の実務経験	介護職員として長年勤務した後、鍼灸資格を取得、専任教員として従事する。		
教育目標	医療の歴史を学びながら、はり師・きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	歴史を通して現代の医療を考察し、日本や海外の医療費の仕組みの違い、日本における医療従事者の数と仕事内容、後期高齢者医療制度や高齢者の医療と福祉について学び、往診経験を持つ専任教員が実際の医療費における鍼灸の適応症などを踏まえて講義する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書	医療概論	著者名	中川米造監修
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備考
1	医療概論の基礎	
2	医学史	
3	現代医学の課題	
4	現代の医療制度	
5	医療倫理	
6	練習問題	
7	練習問題	
7.5	期末試験	

科目名	はりきゅう理論 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	本講では、主に鍼灸の基礎知識の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、まず「はりきゅう理論 I」では、その治効理論を学ぶための基礎となる、鍼灸の施術方法、リスク管理、人体の感覚機能等についての理解を深めていく。		
授業内容	①鍼灸の基礎知識、②刺鍼の方式と術式、③特殊鍼法、④灸の基礎知識、⑤灸術の種類、⑥鍼灸の臨床応用、⑦リスク管理、⑧鍼灸治効の基礎等を学ぶ。これらの項目を臨床経験のある教員が経験談や具体例などを踏まえアドバイスをし、習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	(公社) 東洋療法学校協会編
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	鍼の基礎知識	
2	刺鍼の方式と術式	
3	特殊鍼法	
4	灸の基礎知識	
5	灸術の種類	
6	鍼灸の臨床応用	
7	中間試験	
8	試験解説	
9	リスク管理	
10	鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導 I	
11	鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導 II	
12	鍼灸治効の基礎 温度感覚の受容と伝導	
13	鍼灸治効の基礎 触圧感覚の受容と伝導	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	東洋医学概論 I	時間・単位	2単位・30時間（15コマ）
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	<p>東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎な科目である。</p> <p>当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。東洋医学概論Ⅱとともに、</p> <p>この一年間で、この東洋医学の基礎理論、蔵象（臓腑の生理機能）とその病理病証、または、経絡の基本的な病証等を学ぶ。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東洋医学理論の基礎 ・ 整体観念や精気・陰陽・五行の諸学説 ・ 東洋医学的な人体の捉え方である蔵象と病因・病機 <p>について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</p>		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学 [基礎編]	著者名	劉 公望・兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備考
1	東洋医学の沿革・起源・発展	小テストを実施する
2	陰陽学説	小テストを実施する
3	五行学説	小テストを実施する
4	精と神・気・血・津液の生理作用	小テストを実施する
5	気・血の病理	小テストを実施する
6	津液・陰陽の病理	小テストを実施する
7	中間試験	
8	蔵象学説（肝・心）	小テストを実施する
9	鍼灸学〔基礎編〕	小テストを実施する
10	蔵象学説（腎）	小テストを実施する
11	蔵象学説（胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦）	小テストを実施する
12	病因病機①	小テストを実施する
13	病因病機②	小テストを実施する
14	まとめ	小テストを実施する
15	期末試験	

科目名	東洋医学概論Ⅱ	時間・単位	2単位・30時間（15コマ）
担当教員	松岡 晋也		
教員の実務 経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	<p>東洋医学概論は東洋医学の診断、分析、そして治療に最も基礎な科目である。</p> <p>当科目においては、東洋医学の根幹であり、理解できなければ、将来、臨床現場で正しく診断、そして質の高い鍼灸診療活動はできない。東洋医学概論Ⅰとともに、</p> <p>この一年間で、この東洋医学の基礎理論、蔵象（臓腑の生理機能）とその病理病証、または、経絡の基本的な病証等を学ぶ。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に現れている症状や徴候といった変化の把握 ・弁証論治 <p>について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・中間試験は行わない。 ・成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 <p>「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下</p>		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会 著
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸学〔基礎編〕	著者名	劉 公望・兵頭 明
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備考
1	八綱の概要	小テストを実施する
2	気・血・津液・陰陽の病理	小テストを実施する
3	五臓の病証	小テストを実施する
4	五臓の病証	小テストを実施する
5	五臓の病証	小テストを実施する
6	六腑の病証	小テストを実施する
7	中間試験	
8	複合病証	小テストを実施する
9	経絡病証	小テストを実施する
10	奇経八脈病証	小テストを実施する
11	六経弁証	小テストを実施する
12	衛気営血弁証	小テストを実施する
13	三焦弁証	小テストを実施する
14	まとめ	小テストを実施する
15	期末試験	

科目名	経絡経穴概論 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。</p> <p>本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。</p>		
授業内容	<p>教科書に基づき十四経の流注と、361穴の経穴の名称・所属経絡と取穴部位等を学び、鍼灸の臨床経験を活かした視点でアドバイスをし、実践的な具体例をあげながら、知識を定着させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席、小テストの状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	新板 経絡経穴概論	著者名	日本理療科教員連盟
		出版社名	医道の日本
参考書	プリント配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	経穴とは (オリエンテーション)	
2	体表指標と骨度法	小テスト
3	流注・要穴表	小テスト
4	督脈 (38穴)	小テスト
5	任脈 (24穴)	小テスト
6	手の太陰肺経 (11穴) ・手の陽明大腸経 (20穴)	小テスト
7	足の陽明胃経 (45穴)	小テスト
8	足の太陰脾経 (21穴)	
9	中間試験	小テスト
10	手の少陰心経 (9穴) ・手の太陽小腸経 (19穴)	小テスト
11	足の太陽膀胱経 (67穴) ②	小テスト
12	足の少陰腎経 (27穴)	小テスト
13	手の厥陰心包経 (9穴) ・手の少陽三焦経 (23穴)	小テスト
14	足の少陽胆経 (44穴) /足の厥陰肝経 (14穴)	小テスト
15	期末試験	

科目名	経絡経穴概論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>経絡経穴学概論は鍼灸師にとって基本的な知識です。</p> <p>本講義においては人体における経絡と経穴の関係を解剖学的位置関係とともに理解させることを目的とします。</p>		
授業内容	<p>教科書に基づき経絡経穴概論Ⅰの復習と経穴に関連している筋や支配神経等、各部位の横並びを学ぶ。臨床経験を持つ専任教員が取穴を行いながら患者さんに対する適応例や成功例、経穴の使い方などを踏まえて講義する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席、小テストの状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書		著者名	
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備 考
1	奇経八脈	
2	奇穴	小テスト
3	経絡経穴 I の復習	小テスト
4	胸腹部の解剖と経穴	小テスト
5	腰背部の解剖と経穴	小テスト
6	4 択練習問題	小テスト
7	中間試験	
8	上腕・前腕・手の解剖と経穴	
9	上腕・前腕・手の解剖と経穴	小テスト
10	大腿・下腿・足の解剖と経穴	小テスト
11	大腿・下腿・足の解剖と経穴	小テスト
12	頭・顔の解剖と経穴	小テスト
13	頭・顔の解剖と経穴	小テスト
14	期末試験練習問題	小テスト
15	期末試験	

科目名	あはきの適応の判断	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務 経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	現代医学と東洋医学の基礎理論、および臨床の知識は、将来、医療現場で医療従事者として必要不可欠である。しかしながら臨床現場では、複合的な持病をもっている患者もやって来る。正しく対応するためには、正しい適応判断が必要である。当科目においては、臨床現場で正しく診断、そして質の高い診療活動が出来るよう、適応不適応の判断が出来るようになることが目的である。		
授業内容	「鍼灸不適応疾患の鑑別と対策」を参考書とし、「臨床医学各論」に記載されている疾患等が鍼灸の適応か不適応かを判断できるように、開業経験を持つ担当教員が実際に鍼灸院で起こった「ひやりハット」の事例など踏まえて講義する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書		著者名	
		出版社名	
参考書	鍼灸不適応疾患の鑑別と対策	著者名	代田文彦ほか
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備考
1	鍼灸治療の適応の条件、感染症	
2	消化器系疾患、肝・胆・膵の疾患	
3	呼吸器系疾患	
4	泌尿器系疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患	
5	整形外科疾患	
6	整形外科疾患	
7	整形外科疾患	
8	整形外科疾患	
9	整形外科疾患	
10	整形外科疾患	
11	循環器系疾患、血液・造血系疾患	
12	神経系疾患	
13	膠原病、その他の疾患	
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	生体観察	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	山本 恒之		
教員の実務 経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	体表から触知することのできる骨・筋・腱・神経・血管について、これらの構造物がどの位置に、またどの位の深さにあるのかを、実践を通して習得させることを教育目標とする。		
授業内容	<p>鍼灸師が行う診察と治療は、すべて皮膚を介して行われる。 したがって、今自分が触れている皮膚の下層に何があるのかが分からなければ、診察も治療も全くできないことは自明の理である。鍼灸の臨床経験をいかし、以下の内容について講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭顔面部 2. 頸 部 3. 体 幹 4. 上 肢 5. 下 肢 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	解剖学	著者名	
		出版社名	
参考書	プリントを配布	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	運動器とは	小テスト
2	上肢帯・肩	小テスト
3	上腕・前腕	小テスト
4	手	小テスト
5	上肢まとめ	小テスト
6	中間試験①	
7	大腿	小テスト
8	下腿	小テスト
9	足	小テスト
10	下肢まとめ	小テスト
11	中間試験②	
12	体幹	小テスト
13	頭顔頸部	小テスト
14	体幹・頭顔頸部まとめ	小テスト
15	期末試験	

科目名	基礎実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>まずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする</p>		
授業内容	<p>臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、消毒などの公衆衛生知識、鍼灸治療の過誤と副作用、予防、処置、挿管法（両手挿管法、片手挿管法）、刺鍼の知識（前揉法、押手、切皮、刺入、後揉法）、各種刺法とシリコンゴムへの刺入について学んでいく。</p> <p>※触診・取穴は、特に下肢の骨・筋肉を重点的に行う。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指および刺鍼部の消毒	
3	鍼具の消毒法・滅菌法	
4	鍼治療の過誤と副作用、予防と処置	
5	現行刺鍼の方法（管鍼法の操作）	
6	刺鍼手技①（単刺術、直刺、斜刺、横刺）	
7	刺鍼手技②（置鍼術、雀啄術）	
8	刺鍼手技③（回旋術、旋撚術、刺鍼転向法）	
9	刺入の手順（各自の足への刺入）	
10	各自の足への刺入	
11	各自の足への刺入	
12	中間試験①	
13	中間試験②	
14	刺入の手順（他人への手足への刺入）	
15	足への刺鍼（胃経への刺鍼）	
16	手への刺入（大腸経への刺鍼）	
17	足への刺入（脾経への刺鍼）	
18	手への刺入（心包経、三焦経への刺鍼）	
19	手足への刺鍼まとめ	
20	手足への刺鍼まとめ	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	まとめ	

科目名	基礎実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	長谷川 直子 小野寺 智哉 上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。</p> <p>まずは施灸板で米粒大と半米粒大を正確に作成し、点火する。次に人に対して、五要穴（原・郄・絡）へ施灸し、最終的には背部兪穴に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>鍼灸の臨床現場で灸施術をどの様に使用しているか、治療効果など現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>主に、以下の項目について学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 灸の概要（起源、分類、製造過程、灸治療の過誤と副作用、予防、処置） 2. 練習板を使い、米粒大・半米粒大を5分間で20壮施灸 3. 有根灸（透熱灸、知熱灸〔瞬間灸〕） 4. 上下肢の要穴（原・郄・絡）の取穴と施灸。 5. 胃の六つ灸への施灸。 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・成績評価にあたっては①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	資料配付	著者名	
		出版社名	
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社

回	講義内容	備考
1	オリエンテーション	
2	手指洗浄と消毒、板を使つての施灸練習	
3	艾炷の点火、5分で10壮練習	
4	5分で10壮練習	
5	5分で15壮練習	
6	5分で20壮練習	
7	到達試験①	
8	自分の身体への施灸	
9	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
10	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
11	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
12	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
13	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
14	他人の身体への施灸 手足の要穴（原・郄・絡）	
15	中間試験①	
16	中間試験②	
17	中間試験③	
18	他人の身体への施灸（背部の取穴）	
19	他人の身体への施灸（背部へ施灸）	
20	他人の身体への施灸（背部へ施灸）	
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

科目名	基礎実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>鍼灸臨床において必要な鍼技術の修練と知識を習得するために、鍼灸師が熟知しておかなければならない感染防止対策、治療過誤の防止を学び、基本的な鍼実技を繰り返し行い、安全でスムーズな刺鍼を体得する。</p> <p>まずは、感染防止対策を学び、基本的な刺鍼手技を体得する。次に、人に対して、各体位で正確で安全に刺鍼できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>経絡経穴概論と図解 鍼灸臨床手技マニュアルの教科書に基づき、基礎実技Ⅰの復習と手足の五要穴への正確な取穴と刺針を行う。臨床で最も多い肩・首・腰の主要経穴への刺針を行う。臨床経験を持つ専任教員が、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配付資料	著者名	尾崎昭弘 他
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	図解 鍼灸臨床手技マニュアル	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	基礎実技 I の復習	
2	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（太陽経）	
3	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（少陽経）	
4	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（陽明経）	
5	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（太陰経）	
6	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（少陰経）	
7	上肢・下肢の常用穴への刺鍼（厥陰経）	
8	まとめ	
9	中間試験練習	
10	中間試験①	
11	中間試験②	
12	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼①	
13	背部、肩関節周囲の常用穴の刺鍼②	
14	腰部の常用穴の刺鍼①	
15	腰部の常用穴の刺鍼②	
16	頸部の常用穴の刺鍼①	
17	頸部の常用穴の刺鍼②	
18	背部、肩関節周囲の常用穴刺鍼のまとめ	
19	腰部の常用穴の刺鍼のまとめ	
20	頸部の常用穴の刺鍼	
21	期末試験練習	
22	期末試験①	
22.5	期末試験②	

科目名	基礎実技Ⅳ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>灸施術に関する基本的な知識と技術を習得するために、基礎練習を繰り返し行い、安全でスムーズな施術を体得する。</p> <p>人に対して、各体位で施灸し、最終的に手足の五行穴に対して、正確で安全に施灸できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>開業経験を持つ担当教員が、実際の患者へ施していた糸状灸、散艾による知熱灸、粗艾による知熱灸、その他の灸法などの各種灸法を、実践に即した形で学んでいく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書	図解鍼灸療法技術ガイド Ⅰ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	糸状灸・九分灸・粗艾	
2	糸状灸・九分灸・粗艾	
3	糸状灸・九分灸・粗艾	
4	灸頭鍼	
5	灸頭鍼	
6	肺経の五俞穴へ施灸	
7	大腸経の五俞穴へ施灸	
8	胃経の五俞穴へ施灸	
9	脾経の五俞穴へ施灸	
10	心経の五俞穴へ施灸	
11	小腸経の五俞穴へ施灸	
12	膀胱経の五俞穴へ施灸	
13	腎経の五俞穴へ施灸	
14	心包経の五俞穴へ施灸	
15	三焦経の五俞穴へ施灸	
16	胆経の五俞穴へ施灸	
17	肝経の五俞穴へ施灸	
18	総合練習	
19	期末試験	
20	期末試験	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	その他の灸法	

科目名	総合領域 I	時間・単位	180時間・6単位・90コマ
担当教員	鍼灸学科教員		
教員の経歴	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	この授業の目的は、医学の初学生に対し、1年次に学ぶすべての分野において総合的に復習し、ベースとなる基礎医学の修得を目的とする。また、医療者としての心得や東洋医学的思考の基礎づくりも合わせて行うものとする。		
授業内容	<p>以下の項目に準じて授業を行う。</p> <p>総合領域 I ①：各教科の復習・実力テスト（あはきの歴史含む：70コマ） 総合領域 I ②：からだの仕組み・働きの復習（20コマ）</p> <p>上記の内容を担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域 I ①、②それぞれの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（日程表確認のこと）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		
教科書	配布プリント	著者名	
		出版社名	
参考書		著者名	
		出版社名	

回	日付	講義内容	回	日付	講義内容	回	日付	講義内容
1	4/15	解剖Ⅰ①	31	10/7	生観④	61	1/9	歴史①
2	4/25	生理Ⅰ①	32	10/15	試験①	62	1/10	総合領域Ⅰ⑦
3	5/7	はきⅠ①	33	10/18	経穴Ⅱ②	63	1/16	歴史②
4	5/8	東概Ⅰ①	34	10/18	解剖Ⅱ②	64	1/17	総合領域Ⅰ⑧
5	5/8	経穴Ⅰ①	35	10/22	試験①解説	65	1/23	総合領域Ⅰ⑨
6	5/13	解剖Ⅰ②	36	10/22	解剖Ⅲ①	66	1/24	経穴Ⅱ⑤
7	5/27	解剖Ⅰ③	37	10/23	東概Ⅱ①	67	1/24	総合領域Ⅰ⑩
8	5/30	生理Ⅰ②	38	11/11	公衛Ⅰ①	68	1/28	試験④
9	6/4	はきⅠ②	39	11/12	試験②	69	1/28	解剖Ⅲ④
10	6/5	東概Ⅰ②	40	11/15	経穴Ⅱ③	70	1/31	総合領域Ⅰ⑪
11	6/5	経穴Ⅰ②	41	11/15	解剖Ⅱ③	71	1/31	歴史③
12	6/10	解剖Ⅰ④	42	11/18	生観⑤	72	2/4	試験④解説
13	6/24	解剖Ⅰ⑤	43	11/19	試験②解説	73	2/5	総合領域Ⅰ⑫
14	6/27	生理Ⅰ③	44	11/19	解剖Ⅲ②	74	2/5	東概Ⅱ④
15	7/2	はきⅠ③	45	11/20	東概Ⅱ②	75	2/7	総合領域Ⅰ⑬
16	7/3	東概1③	46	11/28	総合領域Ⅰ①	76	2/7	歴史④
17	7/3	経穴Ⅰ③	47	12/2	解剖Ⅱ④	77	2/10	公衛Ⅰ④
18	7/8	生観①	48	12/5	総合領域Ⅰ②	78	2/12	総合領域Ⅰ⑭
19	7/25	はきⅠ④	49	12/9	公衛Ⅰ②	79	2/14	総合領域Ⅰ⑮
20	7/25	生理Ⅰ④	50	12/10	試験③	80	2/14	総合領域Ⅰ⑯
21	7/29	生観②	51	12/12	総合領域Ⅰ③	81	2/18	試験⑤
22	7/31	東概1④	52	12/13	経穴Ⅱ④	82	2/19	総合領域Ⅰ⑰
23	7/31	経穴Ⅰ④	53	12/16	解剖Ⅱ⑤	83	2/21	総合領域Ⅰ⑱
24	9/2	生観③	54	12/17	試験③解説	84	2/21	総合領域Ⅰ⑲
25	9/10	はきⅠ⑤	55	12/17	解剖Ⅲ③	85	2/25	試験⑤解説
26	9/13	経穴Ⅱ①	56	12/18	東概Ⅱ③	86	2/28	総合領域Ⅰ
27	9/13	解剖Ⅱ①	57	12/19	総合領域Ⅰ④	87	2/28	歴史⑤
28	9/18	東概Ⅰ⑤	58	12/20	総合領域Ⅰ⑤	88	3/4	解剖Ⅲ⑤
29	9/18	経穴Ⅰ⑤	59	1/8	公衛Ⅰ③	89	3/5	東概Ⅱ⑤
30	9/19	生理Ⅰ⑤	60	1/8	総合領域Ⅰ⑥	90	3/7	公衛Ⅰ⑤

鍼灸学科 2部 2年生

	授業科目名	担当教員名	実務経験 有無	時間数	単位数	コマ数
専門基礎 分野	解剖学Ⅳ	高橋 尚明	—	30	2	15
	生理学Ⅱ	上尾 慎	—	30	2	15
	生理学Ⅲ	小野寺 智哉	—	30	2	15
	病理学概論	飯塚 正	—	30	1	15
	臨床医学総論Ⅰ	熊澤 亜由美	—	30	1	15
	臨床医学総論Ⅱ	上尾 慎	—	30	1	15
	臨床医学各論Ⅰ	長谷川 直子	—	30	1	15
	臨床医学各論Ⅱ	熊澤 亜由美	—	30	1	15
	臨床医学各論Ⅲ	山賀 真知子	—	30	1	15
	関係法規	長谷川 直子	◎	15	1	7.5
	社会保障制度及職業倫理	上尾 慎	◎	15	1	7.5
専門 分野	はりきゅう理論Ⅱ	小野寺 智哉	◎	30	2	15
	東洋医学概論Ⅲ	重高 広和	◎	30	2	15
	東洋医学臨床論Ⅰ	伊藤 才二	◎	30	2	15
	東洋医学臨床論Ⅱ	重高 広和	◎	30	2	15
	東洋医学臨床論Ⅲ	伊藤 才二	◎	30	2	15
	応用実技Ⅰ	山賀 真知子	◎	45	1	22.5
	応用実技Ⅱ	重高 広和	◎	45	1	22.5
	応用実技Ⅲ	山賀 真知子	◎	45	1	22.5
	応用実技Ⅳ	重高 広和	◎	45	1	22.5
	総合実技Ⅰ	熊澤 亜由美	◎	45	1	22.5
	臨床実習Ⅰ	重高 広和	◎	45	1	30
	臨床実習Ⅱ	重高 広和	◎	45	1	30
	総合領域Ⅱ	鍼灸学科教員	◎	150	5	75
合計				915	36	472.5

科目名	解剖学Ⅳ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	高橋 尚明		
教育目標	運動障害をもつ患者を診て治療を行うためには、人間の運動にかかわる身体の機能と構造についての基本的な知識を備える。1年次に学習した解剖生理学の基礎知識を基に、特に運動系について総合的な理解を深めることを教育目標とする。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学総論 2. 運動器の構造と機能 3. 神経の構造と機能 4. 運動感覚・反射・随意運動 5. 上肢の運動 6. 下肢の運動 7. 体幹の運動 8. 姿勢・歩行 9. 運動発達・運動学習 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 中間試験は行わない。 ・ 成績評価にあたっては試験の成績、出席状況を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	運動学	著者名	斎藤宏・鴨下博
		出版社名	医歯薬出版株式会社
参考書	パンスキー ジェスト解剖学 基礎と臨床に役立つ Ⅰ 背部・上肢・下肢	著者名	ベン・パンスキー / トーマス・R・ジェスト
		出版社名	西村書店

回	講義内容	備 考
1	運動学総論	
2	運動器の構造と機能	
3	神経の構造と機能①	
4	神経の構造と機能②	小テスト
5	運動の感覚、反射、随意運動	
6	上肢の運動器①	
7	上肢の運動器②	
8	中間試験	1～7回
9	下肢の運動器①	
10	下肢の運動器②	
11	体幹の運動器	
12	姿勢・歩行	小テスト
13	発達・学習	
14	復習とテスト対策	
15	期末テスト	8～14回

科目名	生理学Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	上尾 慎		
教育目標	1) 生理学を学ぶことにより、ヒトが生きている仕組みを理解する。 2) 生理学の学習を通じて、鍼灸師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。		
授業内容	以下の項目で講義をおこなう。 1. 消化と吸収 2. 栄養と代謝 3. 体温 4. 内呼吸 5. 泌尿器と腎臓 6. 骨 7. 筋肉		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	生理学（改訂第3版）	著者名	
		出版社名	
参考書	講義資料を配付	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	消化と吸収	授業の進み方を見て、中間試験を実施することがある。
2	消化と吸収	
3	栄養と代謝	
4	栄養と代謝	
5	内呼吸	
6	体温	
7	中間試験	
8	内分泌	
9	泌尿器	
10	泌尿器と生殖器	
11	尿生成	
12	骨	
13	筋肉	
14	筋肉	
15	期末試験	

科目名	生理学Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教育目標	<p>1) 生理学を学ぶことにより、ヒトが生きている仕組みを理解する。</p> <p>2) 生理学の学習を通じて、鍼灸師として科学的根拠に基づいて問題を発見し解決できる能力を身につける。</p>		
授業内容	<p>以下の項目について講義をおこなう。</p> <p>1. 内分泌 2. 免疫 3. 神経 4. 感覚</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	生理学（改訂第3版）	著者名	
		出版社名	
参考書	講義資料を配付	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	内分泌 (A) : 概要・視床下部と下垂体のホルモン	授業後に小テスト・確認テストを実施することがある。
2	内分泌 (B) : 甲状腺と副腎のホルモン	
3	内分泌 (C) : 消化系ホルモン	
4	免疫 (A) : 免疫の概要と獲得免疫 (体液性免疫)	
5	免疫 (B) : 獲得免疫 (細胞性免疫)	
6	免疫 (C) : リンパと脾臓	
7	中間試験	
8	神経 (A) : 静止膜電位とシナプス	
9	神経 (B) : 神経線維・自律神経の働き	
10	神経 (C) : 伝導路・ブラウン・セカール症候群	
11	神経 (D) : 脳の機能局在	
12	神経 (E) : 反射	
13	感覚 (A) : 感覚の概要と体性感覚	
14	感覚 (B) : 特殊感覚	
15	期末試験	

科目名	病理学概論	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	飯塚 正		
教育目標	現在の医学は目覚しい進歩を日々示しており、病理学も古い古典的病理学から脱皮し、新しい医学研究の一翼として、その内容や研究方法を変えつつある。こういった医学研究の進歩の著しい環境にあつて、鍼灸師を目指している学生が、病理学を通して学んだ知識が将来の自己学習の基礎となりうるように、また鍼灸治療術を学ぶ基礎となるように講義をすすめる方針である。		
授業内容	病理学の概略として1. 病理学の意義 2. 疾病の一般 3. 病因 4. 疾病各論に関しての講義を行うが、病理学を学ぶ上で不可欠な解剖学、組織学、生理学などの知識についてもその概要も交えて総合的に講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	病理学概論、プリント	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	病理学とは・その方法について	
2	疾病の意義と分類・症候の意義と分類・疾病の経過	
3	内因、外因	
4	退行性病変1	
5	退行性病変2	
6	循環障害	
7	中間試験	
8	進行性病変	
9	炎症の一般・分類について	
10	免疫異常、自己免疫異常・アレルギー	
11	腫瘍総論1	
12	腫瘍総論2、腫瘍各論	
13	先天性異常総論・奇形	
14	運動器疾患	
15	期末試験	

科目名	臨床医学総論 I	時間・単位	1単位・30時間（15コマ）
担当教員	熊澤 亜由美		
教育目標	<p>現代西洋医学は科学理論を基盤として成立しており、多くの疾患の診断や治療において、力を発揮している。しかしながら、西洋医学的手法をもってしても力の及ばない領域、例えば、原因が明らかでない複雑な発症要因をもつ疾患や精神的な要素が関連する疾患などがある。さらに、西洋医学では、病態を分析し、臓器に焦点を当てがちで全体像を軽視する傾向がある。これに対して東洋医学では、包括的に病態を捉え、個人の自然治癒力を重視し、全人的に診断・治療する姿勢であり、東洋医学は、西洋医学の実態より現われた歪みを糺し、欠点を補うことが出来る特性がある。東洋医学は、もはや西洋医学を補完・代替する立場ではなく、西洋医学と東洋医学は全く同格の立場で、互いに長所と短所を認め合いながら調和し、国民に有益な医療と情報を提供することが肝要なのである。かかる視点に立ち、東洋医学の医療者を志す学生に西洋医学の持つ科学的な観察と思考力を教示する。</p>		
授業内容	<p>「臨床医学総論」の教科書を使用し、西洋医学における臨床医学の全体を総括して講義を行い、臨床医学における各診療科に共通する事項を横断的に解説する。教科書に準拠して講義を行うが、プリントなどを適宜配布して補足解説する。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験・小テストを実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 小テストを実施し、成績に加味する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学総論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	配付資料 医療関係専門書	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	診察の概要・方法	小テスト実施
2	生命徴候の診察	小テスト実施
3	全身の診察①	小テスト実施
4	全身の診察②	小テスト実施
5	全身の診察③	小テスト実施
6	中間試験	
7	局所の診察①	小テスト実施
8	局所の診察②	小テスト実施
9	局所の診察③	小テスト実施
10	中間試験	
11	神経系の診察	小テスト実施
12	運動機能検査①	小テスト実施
13	運動機能検査②	小テスト実施
14	運動機能検査③	小テスト実施
15	期末試験	

科目名	臨床医学総論Ⅱ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	上尾 慎		
教育目標	患者を理解し、正しく診断して適切な医療を行ううえで重要な医療面接、身体診察、検査法を学習し、主な症状の診察法や臨床検査法を理解する。		
授業内容	臨床医学総論Ⅰに続き、「臨床医学総論」の教科書を使用し、西洋医学における臨床医学の全体を総括して講義を行い、臨床医学における各診療科に共通する事項を横断的に解説する。教科書に準拠して講義を行うが、プリントなどを適宜配布して補足解説する。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学総論	著者名	(公社) 東洋療法学校協会編
		出版社名	医歯薬出版(株)
参考書	配付資料 医療関係専門書等	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	臨床機能検査	
2	臨床機能検査	
3	主な症状の診察法①	
4	主な症状の診察法②	
5	主な症状の診察法③	
6	主な症状の診察法④	
7	主な症状の診察法⑤	
8	中間試験	
9	主な症状の診察法⑥	
10	主な症状の診察法⑦	
11	主な症状の診察法⑧	
12	主な症状の診察法⑨	
13	主な症状の診察法⑩	
14	治療・臨床心理	
15	期末試験	

科目名	臨床医学各論 I	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	長谷川 直子		
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。 ・各疾患の成因、発生機序、病態生理を中心に講義をする。 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	病気がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	メディックメディア

回	講義内容	備考
1	感染症①	
2	感染症②	
3	感染症③	
4	消化管疾患①	
5	消化管疾患②	
6	消化管疾患③	
7	中間試験	
8	肝・胆・膵疾患①	
9	肝・胆・膵疾患②	
10	肝・胆・膵疾患③	
11	呼吸器疾患①	
12	呼吸器疾患②	
13	呼吸器疾患③	
14	期末試験	
15	期末試験解説	

科目名	臨床医学各論Ⅱ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	熊澤 亜由美		
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。 ・各疾患の成因、発生機序、病態生理を中心に講義をする。 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書	病気がみえる	著者名	岡庭 豊
		出版社名	メディックメディア

回	講義内容	備考
1	腎・尿器疾患①	小テスト実施
2	腎・尿器疾患②	小テスト実施
3	腎・尿器疾患③	小テスト実施
4	内分泌疾患①	小テスト実施
5	内分泌疾患②	小テスト実施
6	内分泌疾患③	小テスト実施
7	中間試験	
8	代謝・栄養疾患①	小テスト実施
9	代謝・栄養疾患②	小テスト実施
10	血液・造血器疾患①	小テスト実施
11	血液・造血器疾患②	小テスト実施
12	リウマチ性疾患・膠原病①	小テスト実施
13	リウマチ性疾患・膠原病②	小テスト実施
14	まとめ	小テスト実施
15	期末試験	

科目名	臨床医学各論Ⅲ	時間・単位	30時間・1単位・15コマ
担当教員	山賀 真知子		
教育目標	<p>わが国の鍼灸治療に関する世論の認識は、西洋医学に比してかなり低い。それなりの理由はいくつかあると考えられるが、今後更に鍼灸療法が国民の期待に沿う方向に発展するためには、西洋医学に関する医学知識が要求される。従って鍼灸師は、西洋医学で扱われる各種疾患について十分に理解しておく必要がある。本講では、各疾患に対する概念、定義、検査法、治療法、予後などの医学的知識を習得し、鍼灸臨床において、正しく病態の把握が出来るようにする。また、鍼灸適応疾患の見極めが出来るようにする。</p>		
授業内容	<p>はり師きゅう師国家試験の出題基準を意識し、教科書に準じて講義をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各疾患の成因，発生機序，病態生理を中心に講義をする。 		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	臨床医学各論	著者名	奈良信雄 他
		出版社名	医歯薬出版
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備 考
1	整形外科疾患①	
2	整形外科疾患②	
3	整形外科疾患③	
4	循環器疾患①	
5	循環器疾患②	
6	循環器疾患③	
7	中間試験	
8	神経疾患①	
9	神経疾患②	
10	神経疾患③	
11	神経疾患④	
12	その他の領域①	
13	その他の領域②	
14	その他の領域③	
15	期末試験	

科目名	関係法規	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	長谷川 直子		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	はり師、きゅう師として業務に従事するうえで、「あん摩マッサージ指圧師はり師、きゅう師等に関する法律」と、その業務と、医療従事者として必要な医事福祉関係法規を理解する。		
授業内容	法制度の沿革を通して鍼灸の現状を知り、医療従事者としての鍼灸師の法的位置づけを学び、今後、鍼灸師として業務にあたる際に必要な法制度を、臨床経験を持つ専任教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配付資料	著者名	
		出版社名	
参考書	関係法規	著者名	東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備 考
1	オリエンテーション はり師・きゅう師法律	
2	医事法規と医療制度 医師法	
3	その他の医療従事者に関する法律	
4	薬事法	
5	衛生関係法規	
6	社会保険関係法規、関連医事用語の解説	
7	まとめ、練習問題	
7.5	期末試験	

科目名	社会保障および職業倫理	時間・単位	15時間・1単位・7.5コマ
担当教員	上尾 慎		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	医療概論と関係法規の内容を踏まえ、国家試験に向けての最新情報を知り、はり師、きゅう師として必要な医療倫理を身につけ、社会に貢献できる資質を育成する。		
授業内容	医療概論と関係法規の国家試験対策として最新の情報を四択問題を解きながら覚え、はり師、きゅう師として必要な医療保障や医療倫理、あはき法などを、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら講義を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	配布資料	著者名	
		出版社名	
参考書	医療概論・関係法規	著者名	中川米造監修・東洋療法学校協会・医歯薬出版編
		出版社名	医歯薬出版

回	講義内容	備考
0.5	オリエンテーション	
1.5	医療概論の国試対策	
2.5	医療概論の国試対策	
3.5	関係法規の国試対策	
4.5	関係法規の国試対策	
5.5	関係法規の国試対策	
6.5	まとめ、練習問題	
7.5	期末試験	

科目名	はりきゅう理論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	小野寺 智哉		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	鍼灸の治効理論の理解を目的とする。鍼灸は本来、東洋医学として発展してきたが、その治効理論を現代医学的に解明することは、非常に大切である。したがって、「はりきゅう理論Ⅱ」では、「はりきゅう理論Ⅰ」を踏まえて、鍼灸刺激が生体にどのように作用するかについて、生理学と関連付けながら、治効理論を学んでいく。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点で「はりきゅう理論Ⅰ」を踏まえ、鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識、鍼灸治効機序、鍼灸治効機序と臨床の接点等を学習し、鍼灸療法の治効理論を理解していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	はりきゅう理論	著者名	東洋療法学校協会
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸療法技術ガイドⅠ、Ⅱ	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	はりきゅう理論Ⅰ復習	第1章～第4章
2	はりきゅう理論Ⅰ復習	第5章～第7章
3	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	第8章①
4	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	第8章②
5	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	第8章③
6	鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識	第8章④⑤
7	中間試験	
8	鍼灸治効機序	第9章①
9	鍼灸治効機序	第9章②
10	鍼灸治効機序	第9章③
11	鍼灸治効機序	第9章④
12	鍼灸治効機序と臨床の接点	第10章①
13	鍼灸治効機序と臨床の接点	第10章②
14	まとめ	
15	期末試験	

科目名	東洋医学概論Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	重高 広和		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>伝統医学における鍼灸臨床は、四診法（望・聞・問・切診）を行い、弁証論治に基づく処方と配穴で治療を行う。</p> <p>そこで、伝統鍼灸治療を行う上で必要な四診法、弁証論治を習得する。</p> <p>先ず、診察に必要な医療面接技法を学び、次に望診、聞診、問診、切診と四診法を習得し、最終的には、四診所見から弁証できることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>1. 医療面接技法</p> <p>2. 四診法（望診、聞診、問診、切診）</p> <p>3. 弁証論治（治則、治法、配穴）</p> <p>以上の項目を臨床経験のある教員が経験談や具体例などのアドバイスをし、習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・必要に応じ、課題や小テストを実施し成績に加味する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	東洋医学概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	日本鍼灸の診断学	著者名	有馬 義貴、森 洋平
		出版社名	メディカルユーコン

回	講義内容	備考
1	望診①	
2	望診②	
3	望診③ 聞診①	
4	聞診② 問診①	
5	問診②	
6	問診③	
7	中間テスト	1～6回
8	切診①	
9	切診②	
10	切診③ 鍼灸の補瀉法・難経六十九難	
11	論治①	
12	治療法の概要①	
13	古代刺法	
14	まとめ	
15	期末テスト	1～14回

科目名	東洋医学臨床論 I	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で診察の結果から治療の不適切を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。現代医学的な考え方をもとに、鍼灸施療の対象となる症状について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、診察、治療の過程を理解し、鍼灸施術を適切に行う能力と姿勢を育成する。		
授業内容	<p>鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、下記のような実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>1. 観察と治療、治療計画 2. 所見と記録、治療原則 3. 主要症候の診断と治療</p> <p>① 病態 ②原因 ③症状 ④徒手検査 ⑤治療方針 ⑥鍼灸施術</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイド I・II	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	東洋医学臨床論・はりきゅう編	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備 考
1	総論、疼痛	課題提出や小テストを実施することがある。
2	腰下肢痛①	
3	腰下肢痛②	
4	腰下肢痛③	
5	腰痛①	
6	腰痛②	
7	腰痛③	
8	中間試験	
9	下肢痛①	
10	下肢痛②	
11	下肢痛③	
12	膝痛①	
13	膝痛②	
14	東臨 I まとめ	
15	期末試験	

科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	重高 広和		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	1年次の東洋医学概論Ⅰおよび東洋医学概論Ⅱで学習した東洋医学理論を応用し、臨床で遭遇しやすい疾患の東洋的臨床に活用するための知識の習得を目的とする。		
授業内容	<p>東洋医学概論で学習した理論を応用しながら、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の弁証 2. 各疾患の論治（治則・治法） 3. 各疾患の処法（配穴法） <p>以上の項目について担当教員が臨床現場で培った経験を基に具体的な経験談などアドバイスをを行い、学んでいく。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・小テストを実施し成績に加味する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂
参考書	針灸学【臨床編】	著者名	日中共同編集
		出版社名	東洋学術出版社

回	講義内容	備 考
1	蔵象・臓腑弁証	
2	腹痛、悪心・嘔吐、便秘・下痢	
3	咳と痰、呼吸困難、動悸	
4	高血圧、低血圧、胸痛	小テスト
5	めまい、耳鳴り、難聴	
6	鼻閉・鼻汁、眼精疲労	
7	中間テスト	1～6回
8	排尿障害、ED、月経異常	
9	不通則痛・不営則痛（肩こり・頸肩腕痛）	
10	運動麻痺、末梢神経麻痺	
11	頭痛、顔面痛、不眠症	小テスト
12	うつ病、冷え症、のぼせ	
13	肥満、やせ、脱毛症、かゆみ	
14	まとめ	
15	期末テスト	1～14回

科目名	東洋医学臨床論Ⅲ	時間・単位	30時間・2単位・15コマ
担当教員	伊藤 才二		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床現場で診察の結果から治療の不適切を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する。現代医学的な考え方をもとに、鍼灸施療の対象となる症状について、病態、症状、所見、治療方針を学習し、診察、治療の過程を理解し、鍼灸施術を適切に行う能力と姿勢を育成する。		
授業内容	<p>鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、下記のような実践的な知識および技術を習得していく。</p> <p>1. 観察と治療、治療計画 2. 所見と記録、治療原則 3. 主要症候の診断と治療</p> <p>① 病態 ②原因 ③症状 ④徒手検査 ⑤治療方針 ⑥鍼灸施術</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	東洋医学臨床論・はりきゅう編	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社

回	講義内容	備 考
1	頭痛、顔面痛、顔面神経麻痺①	課題提出や小テストを実施することがある。
2	頭痛、顔面痛、顔面神経麻痺②	
3	頭痛、顔面痛、顔面神経麻痺③	
4	頸肩腕痛①	
5	頸肩腕痛②	
6	頸肩腕痛③	
7	中間試験	
8	上肢痛①	
9	上肢痛②	
10	上肢痛③	
11	関節痛	
12	肩関節痛①	
13	肩関節痛②	
14	東臨Ⅲまとめ	
15	期末試験	

科目名	応用実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山賀 真知子 熊澤 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>実際の臨床において遭遇しやすい腰下肢痛を取り上げ、現代鍼灸の立場から、身体 の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、適切な鍼灸治療法を体得する。 腰殿部や下肢の解剖を復習し、各部位の理学所見を学び、最終的には各種所見を取 り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>主に、以下の点について学んでいく。 ①低周波鍼通電療法の基礎。②腰下肢痛の疾患の鑑別とリスクマネジメント。③ 下肢痛に対する施術。④刺鍼深度・角度の調整。 について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識お よび技術を習得させる。</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸療法技術ガイド	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	低周波鍼通電療法の基礎（下肢の筋）①	課題あり
2	低周波鍼通電療法の基礎（上肢の筋）②	課題あり
3	腰殿部の触診、腰殿部の刺鍼練習	課題あり
4	腰殿部のROM、腰殿部の刺鍼練習	課題あり
5	筋・筋膜性腰痛	課題あり
6	腰椎椎間板ヘルニア①	課題あり
7	腰椎椎間板ヘルニア②	課題あり
8	腰部脊柱管狭窄症	課題あり
9	椎間関節性腰痛	課題あり
10	変形性腰椎症	課題あり
11	梨状筋症候群	課題あり
12	ロールプレイ	課題あり
13	腰殿部の刺鍼練習	課題あり
14	中間試験①	
15	中間試験②	
16	坐骨神経痛	課題あり
17	変形性膝関節症	課題あり
18	ロールプレイ	課題あり
19	腰下肢痛治療まとめ①	課題あり
20	腰下肢治療まとめ②	課題あり
21	期末試験①	
22	期末試験②	
22.5	期末試験③	

科目名	応用実技Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	重高 広和		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	<p>鍼灸臨床において使用される頻度の高い経穴と取り上げ、取穴し経穴に対して刺鍼・施灸ができるよう理解し適切な鍼灸治療法を体得する。</p> <p>最終的には医療面接から患者の状態を判断し、弁証論治し、的確な施術をできることを目標とする。にすることを目標とする。</p>		
授業内容	<p>鍼灸臨床において、どの経穴をどのような場合に使用するかは必須となる知識である。この授業の前半では鍼灸臨床において使用される頻度の高い経穴と取り上げ、どのような場合に用いられるか、また実際に刺鍼する場合の深度や角度・注意すべき点などについて学ぶ。また以下の項目についての授業を行う。</p> <p>1.四診法 2.弁証 3.配穴 4.症例に対するロールプレイ</p>		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	<p>図解鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ 鍼灸臨床の場で必ず役立つ 実践のすべて</p>	著者名	編集主幹 矢野忠
		出版社名	文光堂
参考書	<p>臨床経穴ポケットガイド361穴</p>	著者名	篠原昭二
		出版社名	医師薬出版株式会社

回	講義内容	備 考
1	四診法（切診①）	
2	四診法（切診②）	
3	四診法（切診③）	
4	四診法（望診）	
5	四診法（問診）	
6	中間試験（四診法）	
7	腹痛	
8	頭痛	
9	うつ病	
10	便秘・下痢	
11	頭痛・眩暈	
12	咳と痰・鼻閉と鼻汁	
13	耳鳴・難聴	
14	高血圧・低血圧	
15	眼精疲労・不眠	
16	月経痛（月経困難症）	
17	経筋・運動器疾患	
18	かゆみ	
19	配穴法	
20	期末試験①	片手挿管
21	期末試験②	片手挿管
22	期末試験③	症例問題
22.5	期末試験④	症例問題

科目名	応用実技Ⅲ	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	山賀 真知子 熊澤 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>実際の臨床において遭遇しやすい頸肩部痛を取り上げ、現代鍼灸の立場から、身体の観察方法を理解し、鍼灸治療の論拠を示し、適切な鍼灸治療法を体得する。</p> <p>先ずは、低周波鍼通電療法を学び、次に頸肩部や上肢肢の解剖を復習し、各部位の理学所見を学び、最終的には医療面接の中で所見を取り、疾患を鑑別し、適切な治療方法を選択し、施術ができることを目標とする。</p>		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に、低周波鍼通電療法（パルス）の基礎、頸肩部痛の疾患の鑑別とリスクマネジメント、頸肩部の理学検査、神経学的検査、頸肩部痛に対する施術（病態把握と治療目的）、症例に対するロールプレイについて学んでいく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	新版 経絡経穴概論	著者名	教科書執筆小委員会
		出版社名	医道の日本社
参考書	鍼灸療技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂

回	講義内容	備考
1	頸部・肩関節の触診①	課題あり
2	頸部・肩関節の触診②、肩関節の可動域ROM	課題あり
2.5	頸部・肩関節の触診③、肩関節の可動域ROM	課題あり
3.5	肩こり、頸部痛（僧帽筋上部線維）①	課題あり
4.5	肩こり、頸部痛（僧帽筋上部線維）②	課題あり
5.5	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷①	課題あり
6.5	肩関節周囲炎、腱板炎、腱板損傷②	課題あり
7.5	胸郭出口症候群①	課題あり
8.5	胸郭出口症候群②	課題あり
9.5	上腕二頭筋長頭腱炎	課題あり
10.5	頸肩部刺鍼練習	課題あり
11.5	頸肩部ロールプレイ①	課題あり
12.5	中間試験①	
13.5	中間試験②	
14.5	頸部の触診と可動域（ROM）、理学的診断	課題あり
15.5	頸椎椎間板ヘルニア①	課題あり
16.5	頸椎椎間板ヘルニア②	課題あり
17.5	上腕骨外側上顆炎	課題あり
18.5	頸肩部治療まとめ	課題あり
19.5	頸肩部ロールプレイ	課題あり
20.5	期末試験①	
21.5	期末試験②	
22.5	期末試験③	

科目名	応用実技Ⅳ	時間・単位	1単位・45時間（22.5コマ）
担当教員	重高 広和		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務		
教育目標	伝統医学における鍼灸臨床は四診法を行い、弁証論治に基づく処方と配穴で治療を行う。応用実技Ⅱで学習した内容に加え、応用実技Ⅳにおいては、四診より弁証論治を導きだし、自分で処方・配穴・治療ができることを目標とする。		
授業内容	1)弁証 2)論治(治則・治法) 3)処方(配穴法・特効穴) について、鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得させる。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	気虚の処方・配穴・治療	
2	気滞の処方・配穴・治療	
3	血虚の処方・配穴・治療	
4	脾気虚・脾陽虚・脾虚湿盛の処方・配穴・治療	
5	肝鬱気滞・肝火上炎の処方・配穴・治療	
6	食滞胃脘・胃火上炎の処方・配穴・治療	
7	痰湿の処方・配穴・治療	
8	特殊治療①	
9	特殊治療②	
10	特殊治療③	
11	表証（カゼ）の処方・配穴・治療	
12	肺気虚の処方・配穴・治療	
13	肺陰虚の処方・配穴・治療	
14	肝血虚の処方・配穴・治療	
15	脾胃湿熱の処方・配穴・治療	
16	腎気虚・腎陽虚の処方・配穴・治療	
17	肝脾不和・肝胃不和の処方・配穴・治療	
18	肝火犯肺・心肝火旺の処方・配穴・治療	
19	脾腎陽虚の処方・配穴・治療	
20	まとめ	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	期末試験	

科目名	総合実技 I	時間・単位	45時間・1単位・22.5コマ
担当教員	熊澤 亜由美		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	<p>臨床実習 I・II で必要となる理学所見を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血圧測定 ・ 関節可動域 ・ 深部反射 ・ 病的反射 ・ 知覚検査 ・ 筋力検査 ・ 理学検査 		
授業内容	臨床現場ではどのように診察を進めるのか、実際の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイド I・II	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書	配付資料	著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	血圧測定	
2	感覚検査・反射検査	
3	関節角度測定	
4	関節角度測定	
5	徒手筋力検査	
6	徒手筋力検査	
7	血圧・関節角度測定、反射・徒手筋力検査総合練習	
8	血圧・関節角度測定、反射・徒手筋力検査総合練習	
9	中間試験	
10	中間試験	
11	頰部の理学的検査	
12	肩部の理学的検査	
13	上肢の理学的検査	
14	腰背部の理学検査	
15	腰下肢の理学検査	
16	膝部の理学検査	
17	膝部の理学検査	
18	理学検査総合練習	
19	理学検査総合練習	
20	理学検査総合練習	
21	期末試験	
22	期末試験	
22.5	総括	

科目名	臨床実習 I	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	重高 広和		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	既習の「基礎実技」「解剖学」「東洋医学臨床論」「経絡経穴学概論」等の知識と技術を総合し診察・治療の方法を学習する。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に選穴、鍼・灸の手技、鍼灸施術の準備、消毒の実際、担当教官の指導の元に鍼灸施術の実習、症例に対するロールプレイを行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイド I・II	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	回	講義内容	備考
1	1	臨床実践	
2	2	臨床実践	
3	3	臨床実践	
4	4	臨床実践	
5	5	臨床実践	
6	6	臨床実践	
7	7	臨床実践	
8	8	臨床実践	
9	9	臨床実践	
10	10	臨床実践	
11	11	臨床実践	
12	12	臨床実践	
13	13	臨床実践	
14	14	臨床実践	
15	15	臨床実践	
16	16	臨床実践	
17	17	臨床実践	
18	18	臨床実践	
19	19	臨床実践	
20	20	臨床実践	
21	21	臨床実践	
22	22	臨床実践	
23	23	臨床実践	
24	24	臨床実践	
25	25	臨床実践	
26	26	臨床実践	
27	27	期末試験	
28	28	期末試験	
29	29	期末試験	
30	30	期末試験	

科目名	臨床実習Ⅱ	時間・単位	45時間・1単位・30コマ
担当教員	重高 広和		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	臨床実習Ⅰで学んだことを生かし、ロールプレイや実際に外来患者を取り扱うことにより3年次での臨床実習をスムーズに開始できるように、患者さんとのコミュニケーションのとり方や配慮について学習する。		
授業内容	臨床経験を持つ専任教員が、現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、主に外来患者または模擬患者の問診、触診、各種理学検査の実際を通して病体の現す種々な情報を把握し原因の推定、カルテの記載を行う。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・ 期末試験は授業時間内（原則として授業の最終日）に実施する。 ・ 再試験は授業時間外に実施する。 ・ 必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・ 成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・ 成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	図解鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ	著者名	矢野 忠
		出版社名	文光堂
参考書		著者名	
		出版社名	

回	講義内容	備考
1	臨床実践	
2	臨床実践	
3	臨床実践	
4	臨床実践	
5	臨床実践	
6	臨床実践	
7	臨床実践	
8	臨床実践	
9	臨床実践	
10	臨床実践	
11	臨床実践	
12	臨床実践	
13	臨床実践	
14	臨床実践	
15	臨床実践	
16	臨床実践	
17	臨床実践	
18	臨床実践	
19	臨床実践	
20	臨床実践	
21	臨床実践	
22	臨床実践	
23	臨床実践	
24	臨床実践	
25	臨床実践	
26	臨床実践	
27	期末試験	
28	期末試験	
29	期末試験	
30	期末試験	

科目名	総合領域Ⅱ	時間・単位	150時間・5単位・75コマ
担当教員	鍼灸学科教員全員		
教員の実務経験	鍼灸師として鍼灸治療院等で長年勤務した後、専任教員として従事する。		
教育目標	この授業の目的は、2年次に学ぶすべての分野において総合的に復習するもので、専門基礎分野では解剖学・生理学を復習し、これらをベースに病態生理を把握し、臨床医学総論と各論を習得する。また、専門分野においては東洋医学概論・はりきゅう理論を復習し、東洋医学臨床論を習得するものとする。		
授業内容	以下の項目に準じて授業を行う。 総合領域Ⅱ：解剖学Ⅳ、生理学Ⅱ・Ⅲ、臨床医学総論Ⅰ・Ⅱ、臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、はりきゅう理論Ⅱ、東洋医学概論Ⅲ、東洋医学臨床論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 上記の内容を担当教員が鍼灸の現場経験を活かした視点でアドバイスをしながら、実践的な知識および技術を習得していく。		
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・総合領域Ⅱの授業への出席が3分の2以上を満たした者についてのみ試験等を実施する。 ・期末試験は授業時間内（日程表確認のこと）に実施する。 ・再試験は授業時間外に実施する。 ・必要に応じて授業時間内、あるいは授業時間外に中間試験を実施することがある。 ・成績評価にあたっては、①試験等の成績、②出席状況、③授業の受講態度等を総合的に勘案した結果を基に判定する。 ・成績は以下の5段階で評価し、「可」以上を合格とする。 「秀」：90～100点 「優」：80～89点 「良」：70～79点 「可」：60～69点 「不可」：59点以下 		

教科書	著者名	
	出版社名	
参考書	著者名	
	出版社名	

回	日付	内容	回	日付	内容	回	日付	内容
1	4/25	各論Ⅲ①	31	10/24	東臨Ⅱ①	61	1/30	実力テスト④
2	4/25	東概Ⅲ①	32	10/24	実力テスト①	62	1/31	解剖Ⅳ④
3	5/7	総論Ⅰ①	33	10/25	解剖Ⅳ①	63	2/5	東臨Ⅲ④
4	5/7	東臨Ⅰ①	34	10/31	テスト①解説	64	2/6	テスト④解説
5	5/14	生理Ⅱ①	35	11/11	各論Ⅰ①	65	2/10	総論Ⅱ④
6	5/30	各論Ⅲ②	36	11/11	総論Ⅱ①	66	2/10	各論Ⅰ④
7	5/30	東概Ⅲ②	37	11/20	東臨Ⅲ②	67	2/20	実力テスト⑤
8	6/4	総論Ⅰ②	38	11/20	各論Ⅱ②	68	2/27	はきⅡ⑤
9	6/4	東臨Ⅰ②	39	11/20	生理Ⅲ③	69	2/27	東臨Ⅱ⑤
10	6/10	生理Ⅱ②	40	11/21	はきⅡ②	70	2/27	テスト⑤解説
11	6/27	各論Ⅲ③	41	11/21	東臨Ⅱ②	71	2/28	解剖Ⅳ⑤
12	6/27	東概Ⅲ③	42	11/21	実力テスト②	72	3/4	各論Ⅱ⑤
13	7/2	総論Ⅰ③	43	11/22	解剖Ⅳ②	73	3/5	東臨Ⅲ⑤
14	7/2	東臨Ⅰ③	44	11/28	テスト②解説	74	3/7	各論Ⅰ⑤
15	7/8	生理Ⅱ③	45	12/9	各論Ⅰ②	75	3/7	総論Ⅱ⑤
16	7/25	各論Ⅲ④	46	12/9	総論Ⅱ②			
17	7/25	東概Ⅲ④	47	12/18	東臨Ⅲ③			
18	7/30	総論Ⅰ④	48	12/18	各論Ⅱ③			
19	7/30	東臨Ⅰ④	49	12/18	生理Ⅲ④			
20	8/26	生理Ⅱ④	50	12/19	はきⅡ③			
21	9/17	東臨Ⅰ⑤	51	12/19	東臨Ⅱ③			
22	9/18	生理Ⅲ①	52	12/19	実力テスト③			
23	9/18	総論Ⅰ⑤	53	12/20	解剖Ⅳ③			
24	9/19	各論Ⅲ⑤	54	1/8	各論Ⅰ③			
25	9/19	東概Ⅲ⑤	55	1/8	総論Ⅱ③			
26	9/25	生理Ⅱ⑤	56	1/9	テスト③解説			
27	10/23	東臨Ⅲ①	57	1/28	各論Ⅱ④			
28	10/23	各論Ⅱ①	58	1/28	生理Ⅲ⑤			
29	10/23	生理Ⅲ②	59	1/30	はきⅡ④			
30	10/24	はきⅡ①	60	1/30	東臨Ⅱ④			